

国土利用計画 笛吹市計画

平成 20 年

笛 吹 市

目 次

計 画 編	
序 文	3
第 1 章 市土の利用に関する基本構想	4
第 1 節 市土利用の基本方針	
1 笛吹市の市土利用を取り巻く概況	
2 市土利用上の課題	
3 市土利用の基本方針	
第 2 節 利用区分別の市土利用の基本方向	
第 3 節 地域類型別の市土利用の基本方向	
第 2 章 市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標及びその地域別の概要	9
第 1 節 市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標	
第 2 節 地域別の概要	
1 地域区分	
2 地域別市土利用の方向性	
第 3 章 規模の目標等を達成するために必要な措置の概要	13
第 1 節 公共の福祉の優先	
第 2 節 国土利用計画法等の適切な運用	
第 3 節 地域整備施策の推進	
第 4 節 市土の保全と安全性の確保	
第 5 節 環境の保全と美しい市土の形成	
第 6 節 土地利用の転換の適正化	
1 農用地の利用転換	
2 森林の利用転換	
3 大規模な利用転換	
第 7 節 市土の有効利用の促進	
第 8 節 市土に関する調査等の推進と成果の普及・啓発	
第 9 節 指標の活用と進行管理	
土地利用現況図	
土地利用構想図	

説明資料編

1	計画策定の経緯	23
2	計画における地域区分	23
3	計画における主要指標	24
4	国土利用区分の定義	46
5	人口の推移	48
6	国土利用の推移	49
7	利用区分ごとの国土利用の推移	50
8	利用区分ごとの国土利用の規模の目標	51
9	人口等を基礎とした用地原単位の推移	52
	(1)農用地面積と関係指数の推移と目標	
	(2)森林面積と関係指数の推移と目標	
	(3)水面・河川・水路面積の推移と目標	
	(4)水面・河川・水路の面積の推移	
	(5)道路面積と関係指数の推移と目標	
	(6)道路面積の推移	
	(7)住宅地面積の推移と目標	
	(8)工業用地面積と関係指数の推移と目標	
	(9)その他の宅地面積の推移と目標	
	(10)その他の面積の推移と目標	
	(11)全域面積と関係指標の推移と目標	

国土利用計画 笛吹市計画

計 画 編

序 文

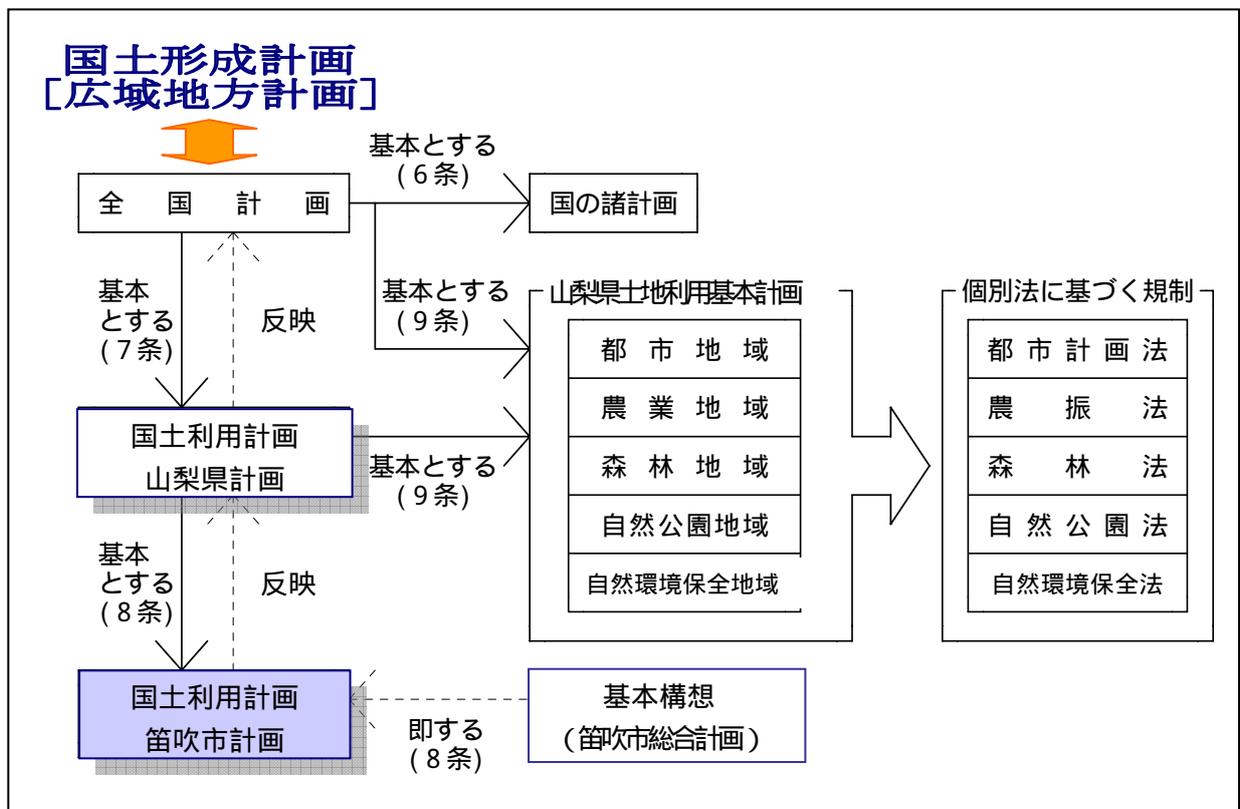
国土利用計画は国土の利用に関する最も基本的な計画であり、総合的かつ長期的な国土利用の指針となるものです。

国土利用計画 笛吹市計画（以下、「本計画」という。）も、国土利用計画法（昭和 49、年法律第 92 号）第 8 条の規定に基づき、山梨県計画を基本とし、笛吹市総合計画に即し策定したものであり、本計画を指針とし各種個別法に基づく本市の土地利用関連諸計画を推進していきます。

本市の区域における国土（以下、「市土」という。）は、現在及び将来にわたって市民や本市を訪れるすべての人のための限られた資源です。

本計画は、生活及び生産を通ずる諸活動の共通の基盤であるとの観点から公共の福祉を優先させ、自然環境の保全を図りつつ、地域の特性に配慮して、健康で文化的な生活環境の確保と市全体の持続可能で均衡ある発展を図ることを基本理念としています。

なお今後、山梨県計画の変更、本計画を取り巻く条件や諸情勢に大きな変化を生じたときには、必要に応じて見直しを行うものとします。



「国土形成計画法」に基づく国土形成計画については平成 20 年の閣議決定が予定されています。

第 1 章 市土の利用に関する基本構想

第 1 節 市土利用の基本方針

1 笛吹市の市土利用を取り巻く概況

甲府盆地の東よりに位置する本市は、首都東京をほぼ 100 km 圏域に有し、関東と中京圏を結ぶ内陸部の幹線軸上にあります。

市域には、甲府盆地の北部や東部、南部の山岳丘陵地帯から流れ出る水系を集め、盆地中央部を西に向かって笛吹川が流れています。笛吹川に向かって南北に流れる日川、金川、浅川、境川等の扇状地と盆地底部の沖積平地が広がっています。

本市の総面積は 201.92 km²（山梨県面積の 4.5%）で、平坦な住宅地域を山裾に広がる果樹地帯が取りまき、北には兜山、南には御坂山系の山々が連なり、盆地を形成しています。この御坂山系の芦川の源流域には“ニホンスズラン”が自生しており、日本でも有数の群生地となっています。また、新道峠は本市より富士山を眺める絶好の景観地としても知られています。

気候は温暖で、盆地特有の内陸性気候で、夏と冬の温度差は大きく、年平均気温 13.7 度、年平均降水量は 1,050mm 程度となっています。

本市の広域的な幹線道路としては、中央自動車道が通り、市内には一宮御坂 IC があり、東京方面や長野・名古屋方面からのアクセスに優れています。周辺都市とをつなぐ道路としては、国道は 20 号が東西軸を形成し、国道 411 号が奥多摩方面、国道 140 号が秩父方面とを結んでいるほか、南北軸として国道 137 号が河口湖方面と、国道 358 号が静岡方面とを結んでいます。

また、本市は“桃・ぶどう日本一の郷”を支える果実郷や石和・春日居温泉郷を擁する観光都市として知られており、こうした資源が本市の市土や景観の形成に大きな役割をはたしています。

加えて、市内には「山梨県自然環境保全条例」に基づく“黒岳自然保存地区”“山梨岡歴史景観保存地区”並びに自然記念物として“曾根丘陵の植物化石及び珪藻化石”及び“芦川のズラン及び生育地”（前述）が指定されるなど、貴重な自然環境・景観を有しています。

2 市土利用上の課題

機能的で快適なまちづくりは計画的な市土利用が基本であり、そのためには、計画的で適正な投資による社会資本等の整備・集約を進めていく必要があります。

このため、農用地や森林等の自然的市土利用については、集団化が維持できないような転用を防止し、今後ともその保全・整備に努めていくとともに、恵まれた自然を大切に、次代へと継承していくことが重要です。

また、宅地をはじめとする都市的市土利用については、「笛吹市総合計画」に掲げる72,000人規模のまちづくりを視野に、既存ストックの活用を図りながら、市民や観光客等が快適に安心して過ごせる環境形成を進めていく必要があります。

こうした視点を踏まえた上で、本市の発展を支える土地政策については、「循環と共生」「安全・安心」「美しさ」の3つの視点を重視した持続可能な市土管理が今後ますます重要となります。

3 市土利用の基本方針

市土は限られた貴重な資源であるとともに、現在及び将来にわたって市民の生活や産業活動などの共通基盤となるものです。

また、少子高齢化や地球温暖化など社会的課題が顕在化しており、広域的な観点から土地のあり方を検討する必要があります。

このような観点にたち、次のような考え方により土地の利用を進めます。

豊かな自然環境については、その保全に努めるとともに、市民や内外の人々のレクリエーションや自然体験・学習の場として適切な活用を図っていきます。

古代からの蓄積がある歴史・文化資源については、その保全に努めるとともに、それらを活用して本市の文化的風土を高めていきます。

誰もが安心して快適に暮らし、市民自らがまちづくりをおこなう担い手となり、コミュニティを形成していくための生活・福祉の基盤環境の整備を推進します。

観光との連携による農林業、商業、工業等の産業基盤を確立します。

都市計画の見直しを適切におこない、効率的で魅力的な都市基盤の整備を推進します。

内外の交流を促進するため、広域的にネットワーク化された交通体系を確立します。

第2節 利用区分別の市土利用の基本方向

利用区分別の市土利用の基本方向は次のとおりです。

[農用地]

農用地については、食糧生産の基盤であり、集団化が維持できないような転用や遊休農地の解消等に努めながら、農産物の笛吹ブランドの確立に必要な農用地の確保・整備を図ります。

また、“桃・ぶどう日本一の郷”として良好な果樹園等の集積・形成に努めるなど、農用地における高度有効利用を図ります。

さらに、農用地がもつ景観的価値や多面的機能にも留意し、その維持・保全を図ります。

[森 林]

森林については、林業の振興に加え、生態系保全や国土保全、水源涵養、自然環境保全、保健休養等の公益的機能にも十分配慮しながら、適切な維持・管理を行うことにより、その保護・育成を図ります。

また、森林保養・レクリエーション等、市民生活や産業と自然との共生が可能な森林活用を図ります。

[原 野]

原野については、周辺を含めた自然環境や景観の保全に配慮しつつ、有効利用を図ります。

[水面・河川・水路]

水面・河川については、氾濫を未然に防止する防災的観点から周辺地域における安全性を確保するための整備を進めます。

特に、笛吹川に代表される河川については市民の憩いの場となる親水性の高い水辺空間として保全・活用に努め、河川が身近に実感できるうるおいのある市土利用を図ります。

水路については、農用地の生産性向上に向けて、必要な改修・整備を進めます。

[道 路]

一般道路については、人・物及び文化等を結び、市民生活の利便性向上や経済活動の活性化、地域間交流の拡大等に重要な都市基盤施設です。

一般道路の機能性・快適性及び安全性の確保・形成を図るため、周辺環境の保全に配慮しながら計画的な整備を進めます。

農林道については、農林業の生産性の向上及び農林地の適正な管理を図るため、計画的な整備を進めます。

[住宅地]

住宅地については、都市化の進展や住宅の質的向上等に対応しつつ、地域の特性を踏まえた良好な居住環境の形成を目指し、既存住宅地における生活環境の整備・改善を図ります。

また、都市計画用途地域内の低未利用地を中心に、今後の人口・世帯数の動向や高齢化の進行等に対応した新たな住宅地の整備と誘導を進めます。

[工業用地]

工業用地については、市民所得の向上や安定した就業機会の確保、地域人口の定住化等に資するよう、周辺環境への影響に配慮しつつ、新たな企業誘致や既存誘致企業の利便性向上のために必要な用地の確保・整備を図ります。

[その他の宅地]

数多くの旅館・ホテル等が集積し、本市の玄関口でもある石和温泉駅周辺については、機能的で美しい街の形成に向けた整備を進めます。

事務所や店舗等の用地については、良好な環境の形成に配慮しつつ、幹線道路網の整備や経済のソフト化・サービス化等に対応しながら必要な用地の確保・整備を図るとともに、中心市街地における土地の有効で高度な利用を促進し、都市機能の充実を図ります。

[その他]

公用・公共施設用地については、市民の生活水準の向上やニーズの多様化等を踏まえながら、市民の利便性や環境の保全、防災機能に配慮しつつ、必要な用地の確保を図ります。

レクリエーション・観光資源用地については、余暇需要の増大・多様化や自然とのふれあい志向の高まり等を踏まえ、既存施設の拡充及び一層の利活用の促進を図ります。

また、優れた環境の維持・保全に十分配慮しながら、公園等や身近な自然を生かしたレクリエーション施設用地の確保並びに施設の整備を図ります。

市街地及び集落内の低未利用地については、住宅・店舗・事務所用地等のほか、公園や緑地、公共施設用地等としての利活用を図ります。

また、荒廃地については、その発生防止に努めるとともに、農用地や森林、地域の活性化のための施設用地等としての活用を図るなど、それぞれの立地条件や周辺環境に応じて積極的に有効利用の促進を図ります。

第3節 地域類型別の市土利用の基本方向

森林地域

山岳地帯に広がる森林は、林業の推進とともに自然生態系の保護や水源涵養などに大きな役割を持っていることから、森林環境の維持向上を目的とした管理体制を充実していきます。

また、森林の保健保養機能を活かし、緑の環境の中での学習やレクリエーションの場、あるいは自然志向の人々の受け入れや交流の場として活用していきます。

果樹・田園地域

“日本一桃・ぶどうの郷”を支える果樹地帯やのどかで美しい集落地帯は、本市のふるさと景観の大きな特色でもあります。

農業基盤の整備や遊休農地の活用を図るとともに、生活の場としての環境やコミュニティ機能の充実により、ゆとりある農・住エリアを形成していきます。

商・工業地域

商工業は、地域経済の発展・雇用の場の確保に重要であり、新しい価値の創造につながる可能性を秘めています。

今後とも、既存の計画を踏まえ、自然環境や農業生産、市民生活と調和した産業活動を促進していきます。

観光・交流地域

温泉と果樹に加えて森林・河川等の自然環境や歴史・文化的資源を積極的に活かしながら、観光・交流の舞台を広げていきます。

また、鉄道駅及びインターチェンジ周辺については、本市の観光・交流の玄関口としての機能強化を図るとともに、石和・春日居温泉郷一帯についても、観光・交流の中核として機能を高めていきます。

幹線道路沿線地域

国道 20 号をはじめ、本市の幹線道路沿線においては、交流を促進する流動軸としての強化を図るとともに、地域にふさわしい沿道景観づくりや、適切な沿道サービス型施設の立地・誘導を進めます。

また、新山梨環状道路（東側区間）などの主要な道路計画を見据え計画的な土地利用を推進します。

コミュニティ拠点地域

市役所・各支所及びその周辺を地域生活圏の拠点として位置づけ、日常的な生活・福祉等のサービス機能を充実するとともに、地域住民によるまちづくりの場として活用を進めます。

第2章 市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標及びその地域別の概要

第1節 市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標

1 基準年次及び目標年次

本計画の基準年次は、利用目的に応じた区分ごとの規模把握に係る資料等の状況を踏まえ、平成17年とします。

また、利用目的に応じた区分ごとの規模の目標年次は平成29年とするとともに、そこに至る経過的な目安として平成24年を中間年次とします。

2 目標年次における人口及び世帯数

市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標を設定するにあたって、その基礎となる将来（平成29年）の人口及び世帯数については、72,000人、27,900世帯を想定します。

3 利用目的に応じた区分の設定

計画の対象とする市土の利用区分は、農用地（農地、採草放牧地）、森林（国有林・民有林）、原野、水面・河川・水路（水面、河川、水路）、道路（一般道路、農道、林道）、宅地（住宅地、工業用地、その他の宅地）、その他とします（7区分15分類）。

4 目標設定の方法

市土の利用目的に応じた区分ごとの将来における規模の目標設定にあたっては、近年におけるそれぞれの区分ごとの規模の動向や将来の人口・世帯数、並びに今後想定される大規模プロジェクト等の条件から総合的に判断して設定します。

5 規模の目標

市土の利用に関する基本構想（第1章）に基づく、利用目的に応じた区分ごとの規模の目標は次表のとおりです。

なお、ここで示す規模の目標（数値）については、将来における社会経済動向の中で、あくまでひとつの目安として弾力的に解釈されるべき性格のものです。

市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標

区 分	面 積 (ha)			構 成 比		
	基準年次	中間年次	目標年次	基準年次	中間年次	目標年次
	平成17年	平成24年	平成29年	平成17年	平成24年	平成29年
農用地	3,539	3,461	3,434	17.5%	17.1%	17.0%
農地	3,534	3,456	3,429	17.5%	17.1%	17.0%
採草放牧地	5	5	5	0.0%	0.0%	0.0%
森林	11,824	11,818	11,817	58.6%	58.5%	58.5%
国有林	114	114	114	0.6%	0.6%	0.6%
民有林	11,710	11,704	11,703	58.0%	58.0%	58.0%
原野	4	4	4	0.0%	0.0%	0.0%
水面・河川・水路	256	256	256	1.3%	1.3%	1.3%
水面	2	2	2	0.0%	0.0%	0.0%
河川	249	249	249	1.2%	1.2%	1.2%
水路	5	5	5	0.0%	0.0%	0.0%
道路	638	658	672	3.2%	3.3%	3.3%
一般道路	525	545	559	2.6%	2.7%	2.8%
農道	81	81	81	0.4%	0.4%	0.4%
林道	32	32	32	0.2%	0.2%	0.2%
宅地	1,453	1,505	1,523	7.2%	7.5%	7.5%
住宅地	951	975	988	4.7%	4.8%	4.9%
工業用地	53	70	72	0.3%	0.3%	0.4%
その他の宅地	449	460	463	2.2%	2.3%	2.3%
その他	2,478	2,490	2,486	12.3%	12.3%	12.3%
合 計	20,192	20,192	20,192	100.0%	100.0%	100.0%

注：中間年次（平成24年）及び目標年次（平成29年）は推計値です。

第2節 地域別の概要

1 地域区分

地域の区分は、本市における地形等の自然的条件や土地利用の状況等を勘案し、北部エリア、中部エリア及び南部エリアの3区分とします。



2 地域別市土地利用の方向性

地域区分に基づく各地域別の概要は次のとおりです。

北部エリア

北部エリアは、JR石和温泉駅及び春日居町駅周辺から笛吹川に至る一帯で、本市の中心市街地として、多くの都市機能が集積しています。

また、本エリアには古くからの歴史と果樹園に囲まれた温泉街があり、本市を特徴づける大きな魅力のひとつであるとともに、山梨県観光の主要な宿泊・交流拠点のひとつでもあります。

このように、本エリアは本市における交流や観光産業などの中心的エリアとして位置づけられます。

今後も、市民や本市を訪れる観光客にとって、快適で利便性に配慮された中心市街地として、機能的で魅力あるまちづくりを進めます。

特に、JR石和温泉駅及びその周辺については、温泉と果樹郷の“笛吹市”の玄関口として、機能的であるだけでなく、美しい街並みの形成に向け、土地区画整理事業等の面的整備や街路整備を推進していきます。

中部エリア

中部エリアは、笛吹川以南の比較的平坦な地域に広がる農業主体のエリアで、「桃・ぶどう日本一の郷」である本市の基幹産業を大きく担うエリアとなっています。

中部エリア一帯に広がる果樹園と各集落の街並み等が織りなす風景は、本市を代表する美しい景観であるとともに、多くの観光客が訪れる観光都市としての本市にとって大きな観光資源のひとつとも言えます。

今後も、本市が「桃・ぶどう日本一の郷」として確固たる地位を維持していくため、農家の経営力の向上や優良農地の保全、季節に応じた労働力の確保等を進め、果樹生産量及び品質の向上を図るとともに、「笛吹ブランド」の確立を目指します。

そのため、農業基盤整備の推進や農地利用の集積促進等を通じ、農用地の減少化傾向の抑制を図ります。

南部エリア

南部エリアは、御坂山系とその山裾一帯に広がるエリアで、美しい山並みの自然景観を有し、本市の豊かな水資源の涵養、土砂流出防止等の自然環境の保全に重要な役割を担っているエリアです。

南部エリア一帯に広がる森林等の自然については、“黒岳自然保存地区”や“芦川のスズラン及び生育地”等を含め、多種多様な生態系を有するとともに、市民のレクリエーションや憩いの場としても親しまれています。

今後も、本市における生物多様性の維持や回復に努め、市民や観光客と自然の共生を図りつつ、エリア内に点在する集落の生活環境の向上を図っていきます。

第3章 規模の目標等を達成するために 必要な措置の概要

第1節 公共の福祉の優先

市土は次代に継承すべき市民共有の財産であることから、その利用にあたっては、公共の福祉を最優先させるとともに、本市の持つ自然や社会、経済、文化的諸条件等に応じて適正な利用・管理が図られるよう努めます。

このため、各種の規制や誘導措置などを通じた総合的な対策を実施していきます。

第2節 国土利用計画法等の適切な運用

国土利用計画法及びこれに関連する土地利用関係法の適切な運用により、市土利用の計画的な調整と適正な市土利用の確保を図ります。

また、地価の安定を図るため、地価動向の的確な把握に努めます。

第3節 地域整備施策の推進

地域振興の推進にあたっては、笛吹市総合計画に掲げる都市将来像『みんなで奏でる“にぎわい・やすらぎ・きらめき”のハーモニー』の実現と市土の持続可能で均衡ある発展に向けて、「実り多い産業と、人々の集うまちづくり」「環境にやさしく、安心して健やかに暮らせるまちづくり」及び「個性輝く人々が育ち、活躍するまちづくり」の三つのまちづくりの方向を柱に、特色ある地域整備施策を推進します。

都市将来像の実現に向けては、“笛吹 DNA 戦略”に基づき、地域と地域、市民と行政、施策と施策あらゆるものを“のばす = develop”“つなぐ = network”そして“ささえる = assist”という視点から互いに連携し、相乗効果を生み出すようなまちづくりを進めます。

こうした考え方を踏まえ、「都市計画マスタープラン」「農業振興地域整備計画」「森林整備計画」に基づき、市土の調和のとれた計画的利用の推進に努めます。

第4節 市土の保全と安全性の確保

市土の保全と安全性の確保を図る適正な土地利用を推進します。

森林については、自然環境の保全と市土の安全性確保に大きな役割を担っており、森林資源の適正管理や林業の振興を図るとともに、治山事業等による防災・減災対策に努めます。

河川については、親水機能にも配慮しながら、未改修部分の整備を促進します。

石和温泉駅及び春日居町駅周辺の市街地については、安全な都市環境の維持・形成を図るため、緑地空間の確保に努めるとともに、都市防災に配慮した市土利用やまちづくりを進めます。

第5節 環境の保全と美しい市土の形成

快適で美しい市土と都市環境を維持・形成し、これを次世代に継承していくためには、自然界の物質循環だけではなく、人間の営みとしての社会経済活動を通じた循環等、人間活動と自然のプロセスが調和した循環の構築を図るとともに、市土における生物多様性の維持・回復等、人と自然の共生を図ることが重要です。

こうした視点を踏まえた上で、都市計画用途地域に応じた土地利用や緑資源や水辺空間の確保と整備など、それぞれの地域特性に応じた環境整備や市街地整備による街並み景観の形成等を推進します。

第6節 土地利用の転換の適正化

土地利用の転換にあたっては、周辺環境への影響等に配慮しながら、総合的・長期的視点から適正な転換に努めます。

1 農用地の利用転換

農用地の利用転換を行う際には、食糧生産の確保、農業経営の安定及び地域農業に及ぼす影響等に留意し、周辺の土地利用との計画的な調整を図りながら、無秩序な転換を抑制し、優良農用地の確保に十分配慮します。

2 森林の利用転換

森林の利用転換を行う際には、森林生産機能と林業経営の安定に留意するとともに、森林のもつ市土保全や水源涵養、自然環境保持等の公益機能の保全を考慮しながら、周辺の土地利用との調整を図ります。

3 大規模な利用転換

大規模な土地利用の転換は、周辺の環境や土地利用に対する影響が大きいことを十分踏まえ、市土や自然環境・生活環境の保全に配慮しながら、計画的な調整を図ります。

第7節 市土の有効利用の促進

限られた資源である市土を効率的に利用するため、高齢者等が利用しやすい都市機能の確保やCO₂排出量削減等の観点からも、無秩序な拡散型まちづくりから暮らしやすい集約型まちづくりへの転換を視野に、市土の有効利用を促進します。

[農用地]

農用地については、「農業振興地域整備計画」等に基づく農業振興を図るため、それぞれの土地条件に応じた土地改良事業や農用地の基盤整備を計画的に進めるとともに、農用地の流動化を図り集団化と高度利用を推進します。

また、都市的市土利用との計画的調整を図り、無秩序な都市開発や転用を抑制し、優良農地の確保に努めます。

[森林]

森林については、「森林整備計画」等に基づく林業基盤の総合的な整備に努めながら、林業生産を高めていくとともに、市土保全や保健保養・レクリエーション等に果たす公益的機能の増進に配慮した森林資源の整備を図ります。

[水面・河川・水路]

水面・河川及び水路については、自然環境や都市環境の保全、災害の防止等の観点から、必要に応じた改修・整備を推進するとともに、市民に親しまれる親水空間としての整備を図ります。

[道路]

一般道路については、人や物の交流拡大の基盤として都市の発展や快適で活力ある市民生活の確保等の観点から、安全で快適な道路として総合的かつ長期的計画に基づく整備を図ります。

農道及び林道については、農林業振興のための整備を促進します。

[住宅地]

住宅地については、核家族化の進行等による世帯数の増加が見込まれることから、今後とも宅地需要に対応するため、公園や下水道等の都市基盤などの生活環境の整備を図りながら、計画的な開発や整備、誘導に努めます。

[工業用地]

工業用地については、産業の高度化や経済のソフト化、サービス化への対応及び周辺環境の保全に配慮しながら、企業誘致による地域活性化に向けて、農地の集積等の計画的な市土利用を進めながら、既存の農工団地等を活用した用地確保を図っていきます。

[その他の宅地]

旅館・ホテル等の宿泊施設や事務所・店舗等の用地については、「都市計画マスタープラン」等に基づく市土利用への誘導を促進します。

特に、石和温泉駅周辺等の温泉街を擁する中心市街地においては、市土の有効利用に配慮した面的整備等により、機能的で魅力ある空間の確保に努めながら街並み整備を図ります。

[公用・公共施設用地]

公用・公共施設用地については、地域の諸条件に配慮しつつ、施設の環境整備や有効な市土利用を促進します。

[低未利用地]

低未利用地については、総合的かつ長期的視点や周辺の市土利用状況等を踏まえた有効活用を推進します。

耕作放棄地については、市土及び周辺環境の保全の観点からも農用地としての活用を促進するとともに、状況に応じては地域活性化等の観点から土地利用の転換をする等の有効活用を図っていきます。

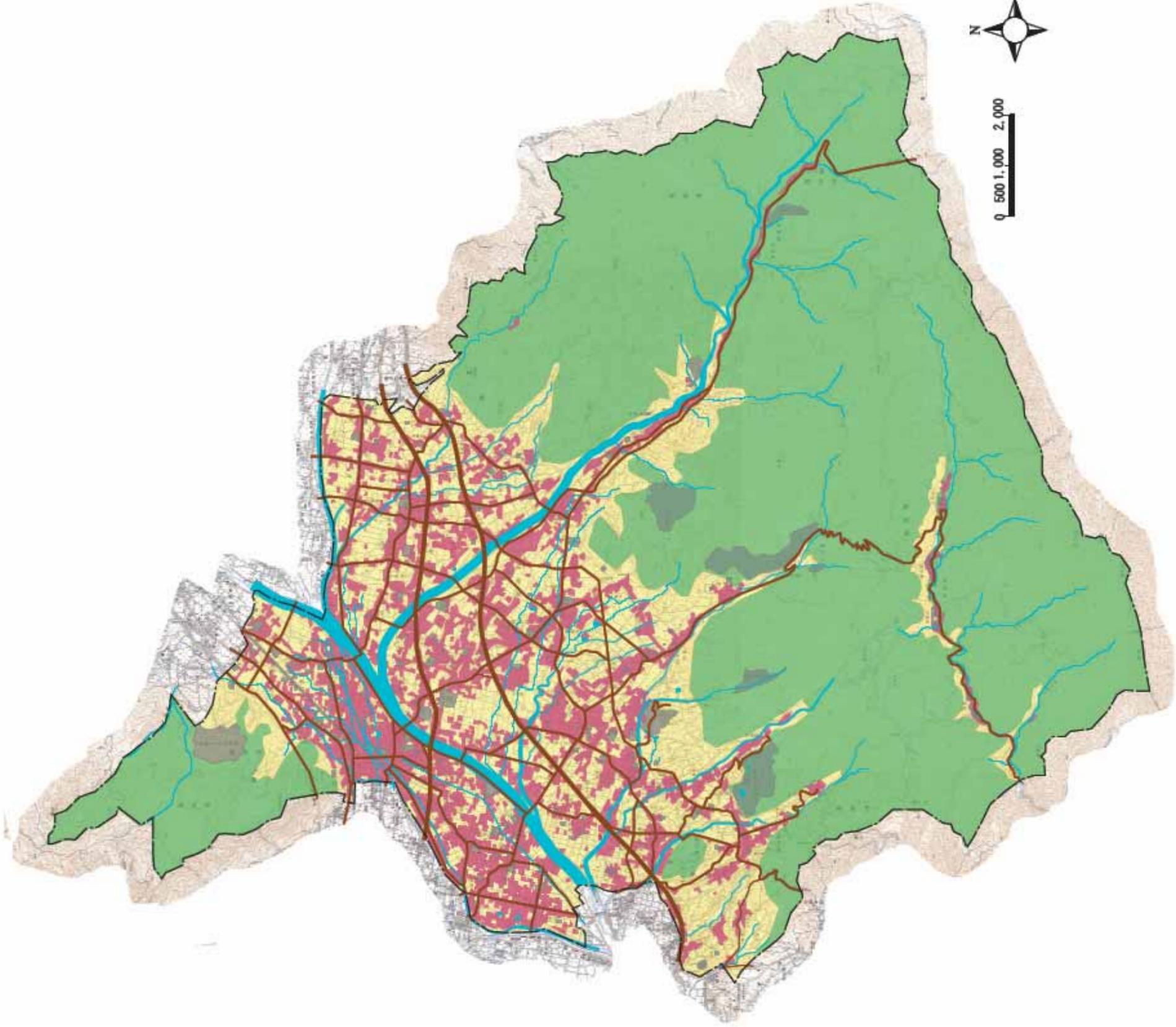
第 8 節 市土に関する調査等の推進と成果の普及・啓発

市土の計画的かつ適正な利用や整備、保全、安全・安心の確保等の観点から、市土空間に関する調査等を進め、地理情報システム（GIS）等を活用した市土空間情報の整備を図ります。

また、市土利用に対する市民の理解を促し、本計画の実効性を高めるため、市土空間情報の提供等に努めます。

第 9 節 指標の活用と進行管理

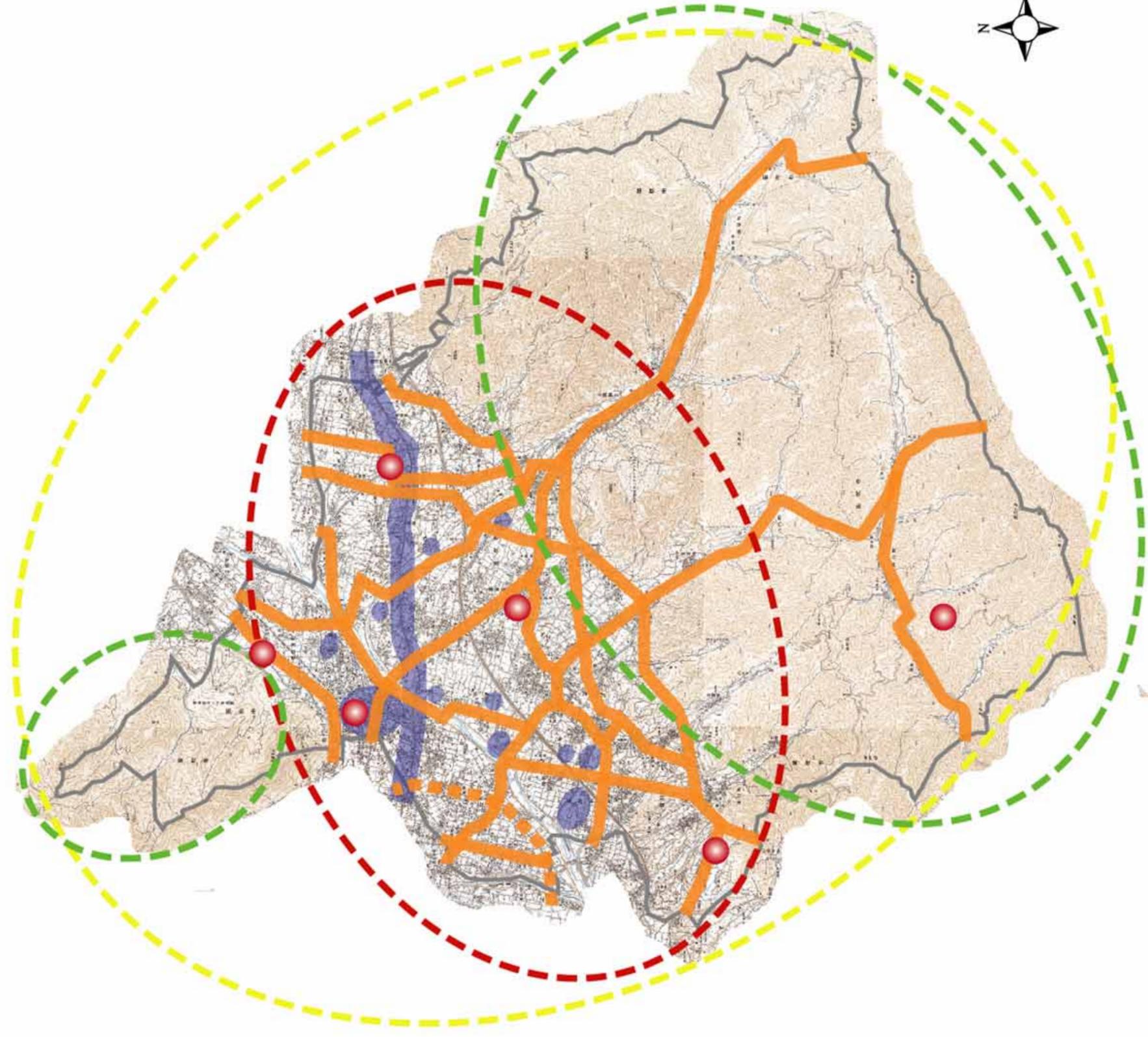
計画の推進等にあたっては、利用目的に応じた区分ごとの規模等の各種指標の活用等により、本計画の適切な管理に努めます。



凡 例	
	農用地
	森林・原野
	水面・河川・水路
	道路
	宅 地
	その他

笛吹市 土地利用現況図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平19国複、第148号)」



	森林地域		観光・交流拠点
	果樹・田園地域		幹線道路沿線地域
	商・工業地域		コミュニティ拠点施設

笛吹市 土地利用構想図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平19開様、第148号)」

国土利用計画 笛吹市計画

資料編

1 計画策定の経緯

年 月 日	経 過 等
平成 18 年 10 月	総合計画策定のための「市民アンケート調査」において、土地利用に関する市民意識調査の実施
平成 19 年 7 月 12 日	国土地理院より測量成果複製承認（承認番号 平 19 関複、第 148 号）
平成 19 年 11 月 30 日	山梨県に事前調整のため資料提出
平成 20 年 1 月 9 日～ 平成 20 年 1 月 31 日	パブリックインボルブメント実施
平成 20 年 2 月 1 日	各種意見について山梨県へ回答書提出
平成 20 年 2 月 8 日	山梨県より回答受理
平成 20 年 2 月 28 日	国土利用計画法第 8 条第 3 項に基づく市議会での議決
平成 20 年 3 月	国土利用計画法第 8 条第 5 項に基づく知事への報告及び公表

2 計画における地域区分



3 計画における主要指標

[人口・世帯数関係]

総人口

本市の総人口は、平成 2 年の 62,322 人から平成 17 年には 71,711 人へと一貫した増加傾向で推移してきましたが、近年ではその増加傾向も緩やかなものへと移りつつあります。

年齢別人口

少子高齢化の中、本市においても、年少人口が平成 2 年の 11,191 人（18.0%）から平成 17 年には 10,966 人（15.3%）へと減少する一方で、高齢人口については同期間に 10,525 人（16.9%）から 15,356 人（21.4%）へ増加しています。

また、生産年齢人口については、平成 2 年の 40,536 人（65.0%）から平成 12 年には 45,761 人（64.4%）にまで増加しましたが、平成 17 年には 45,382 人（63.3%）へと減少に転じています。

世帯数

総世帯数は、平成 2 年の 18,160 世帯から平成 17 年には 25,029 世帯にまで増加し、また、同期間に平均世帯人員は 3.43 人/世帯から 2.87 人/世帯へと縮小するなど、核家族化の状況がうかがわれます。

[産業構造関係]

総就業者数

総就業者数は、平成 2 年の 33,956 人から平成 12 年には 39,047 人にまで増加した後、平成 17 年には 38,649 人へと減少に転じるなど、生産年齢人口と同様の推移をしています。

産業別就業者数

第 1 次産業就業者数は一貫した減少傾向の中で推移しており、平成 2 年の 9,582 人（28.2%）から平成 17 年には 7,439 人（19.2%）となっています。

第 2 次産業就業者数は、平成 2 年の 7,937 人（23.4%）から平成 12 年までは増加基調で推移していましたが、平成 17 年には減少に転じ、8,719 人（22.6%）となっています。

第 3 次産業就業者数は、平成 2 年の 16,363 人（48.2%）から平成 17 年には 21,878 人（56.6%）へと一貫した増加傾向を続けており、本市の産業構造におけるサービス業の増加傾向が読みとれます。

産業規模

本市の主要な産業である農業についてみると、その産出額は平成 16 年で約 205 億円ありますが、そのうち果実が 176 億円と全体の 86%を占めています。

次に製造業については、製造品出荷額では約 1,200 億円で、事業所数は 128 事業所、従事者数 4,476 人となっています。

また、商業については、年間商品販売額では約 1,005 億円で、事業所数は 806 事業所、従事者数は 5,243 人となっています。

[観光関係]

山梨県観光客動態調査における「石和温泉・果実郷周辺」の調査結果について、観光客の入り込み動向について見てみると、平成 12 年から平成 14 年までは減少傾向にありましたが、総数としては近年やや回復の兆しがみられ、平成 17 年には約 492 万人（延べ人数）となっています。

日帰り・宿泊別にみると、全体の傾向と概ね同じような動向にありますが、宿泊率は減少傾向がみられ、本市周辺において滞留化が弱まりつつあることを示しています。

[道路・交通関係]

広域的なアクセス道路としては、中央自動車道が通り、市内には一宮御坂 IC があり、東京方面や長野・名古屋方面からのアクセスに優れています。

市外とをつなぐアクセス道路としては、国道は 20 号が東西軸を形成し、国道 411 号が奥多摩方面、国道 140 号が秩父方面とを結んでいます。また、南北軸としては国道 137 号が河口湖方面と、国道 358 号が静岡方面とを結んでいます。

市内のアクセス道路としては、国道とあわせ県道および市道がその役割を担っています。

鉄道は JR 中央本線が走り、石和温泉駅と春日居町駅の 2 駅があり、新宿～石和温泉駅間が特急で約 1 時間 30 分で結ばれています。

[環境保存・自然環境関係]

市内には「山梨県自然環境保全条例」に基づく“黒岳自然保存地区”“山梨岡歴史景観保存地区”並びに自然記念物として“曾根丘陵の植物化石及び珪藻化石”及び“芦川のスズラン及び生育地”（前述）が指定されています。

[歴史・文化関係]

概 況

本市の歴史は古く、縄文時代の釈迦堂遺跡・一の沢遺跡からは珍しい遺物が数多く出土し、重要文化財に指定されています。古墳時代には岡銚子塚古墳や竜塚古墳、姥塚古墳、経塚古墳等が築かれました。

また、市内には甲斐国最古の寺である寺本廃寺や甲斐国分寺・甲斐国分尼寺、甲斐国唯一の御厨等が存在し、国府や国衙、国分の地名が残されているなど、古代甲斐国の政治・文化の中心地であったことがわかります。

さらに、戦国大名武田家の祈願寺であった慈眼寺や大蔵経寺等には武田家ゆかりの資料が残されています。また山梨岡神社の太々神楽は「武田信玄出陣の神楽」とも呼ばれ、戦勝を祈願し、奉納したと言われていています。

江戸時代には、甲州街道が整備され石和は宿場町として栄えました。また市内には古代の官道「若彦路」や歴史の道百選に指定されている「鎌倉路」、雁坂峠を越え秩父に通じる「秩父路」等が通り、古来より数多くの人馬の往来がありました。

明治時代には、日本初のヨーロッパ型地下ワイン発酵槽が造られました。現在は、古いワイン造りの様子を伝える貴重な遺構として、登録有形文化財に指定されています。

大正・昭和時代には、俳壇で巨匠飯田蛇笏・龍太が活躍し、深沢七郎が『笛吹川』を、小川正子が『小島の春』を執筆しました。

また昭和 36 年に石和町で温泉が湧出し、その後の高度経済成長の流れの中で、石和・春日居温泉は一大温泉郷として発展してきました。

現在、本市では水防祈願の大神幸祭が浅間神社を中心に行われ、観光行事として川中島合戦戦国絵巻や笈形焼、大文字焼等のイベントが行われています。

国・県・市の文化財（建造物・史跡・名勝・天然記念物）

国指定文化財一覧表

NO	名 称	種 別	所在地 所有者または管理者
1	浅間神社摂社山宮神社本殿	建 造 物	一宮町一ノ宮1705 浅間神社
2	山梨岡神社本殿	建 造 物	春日居町鎮目1696 山梨岡神社
3	慈眼寺本堂	建 造 物	一宮町末木336 慈眼寺
4	慈眼寺鐘桜門	建 造 物	一宮町末木336 慈眼寺
5	慈眼寺庫裏	建 造 物	一宮町末木336 慈眼寺
6	甲斐国分寺跡	史 跡	一宮町国分 笛吹市 他
7	甲斐国分尼寺跡	史 跡	一宮町東原 笛吹市 他

県指定文化財一覧表

NO	名 称	種 別	所在地 所有者または管理者
1	佐久神社本殿 附神額	建 造 物	石和町河内80 佐久神社
2	八田家書院 附土蔵棟札・永々日記 家政歴年誌・地相絵画図・八田村古絵図	建 造 物	石和町八田334 笛吹市
3	姥塚	史 跡	御坂町井之上941 南照院
4	八田家御朱印屋敷	史 跡	石和町八田334 八田家
5	岡銚子塚古墳	史 跡	八代町岡2286番地 笛吹市
6	経塚古墳	史 跡	一宮町国分 山梨県
7	竜塚古墳	史 跡	八代町米倉2086-51他16筆 笛吹市他
8	檜峰神社コノハズク生息地	天然記念物	御坂町上黒駒 檜峰神社
9	一宮浅間神社の夫婦梅	天然記念物	一宮町一ノ宮1684 浅間神社
10	智光寺のカヤ	天然記念物	境川町藤袋322 智光寺
11	宗源寺のヒダリマキカヤ	天然記念物	境川町藤袋4771 宗源寺
12	藤袋のヤツブサウメ	天然記念物	境川町藤袋161 個人
13	下黒駒の大ヒイラギ	天然記念物	御坂町下黒駒 秋葉神社
14	称願寺のサクラ	天然記念物	御坂町上黒駒2964 称源寺
15	鶯宿峠のリョウメンヒノキ	天然記念物	芦川町鶯宿峠 山梨県

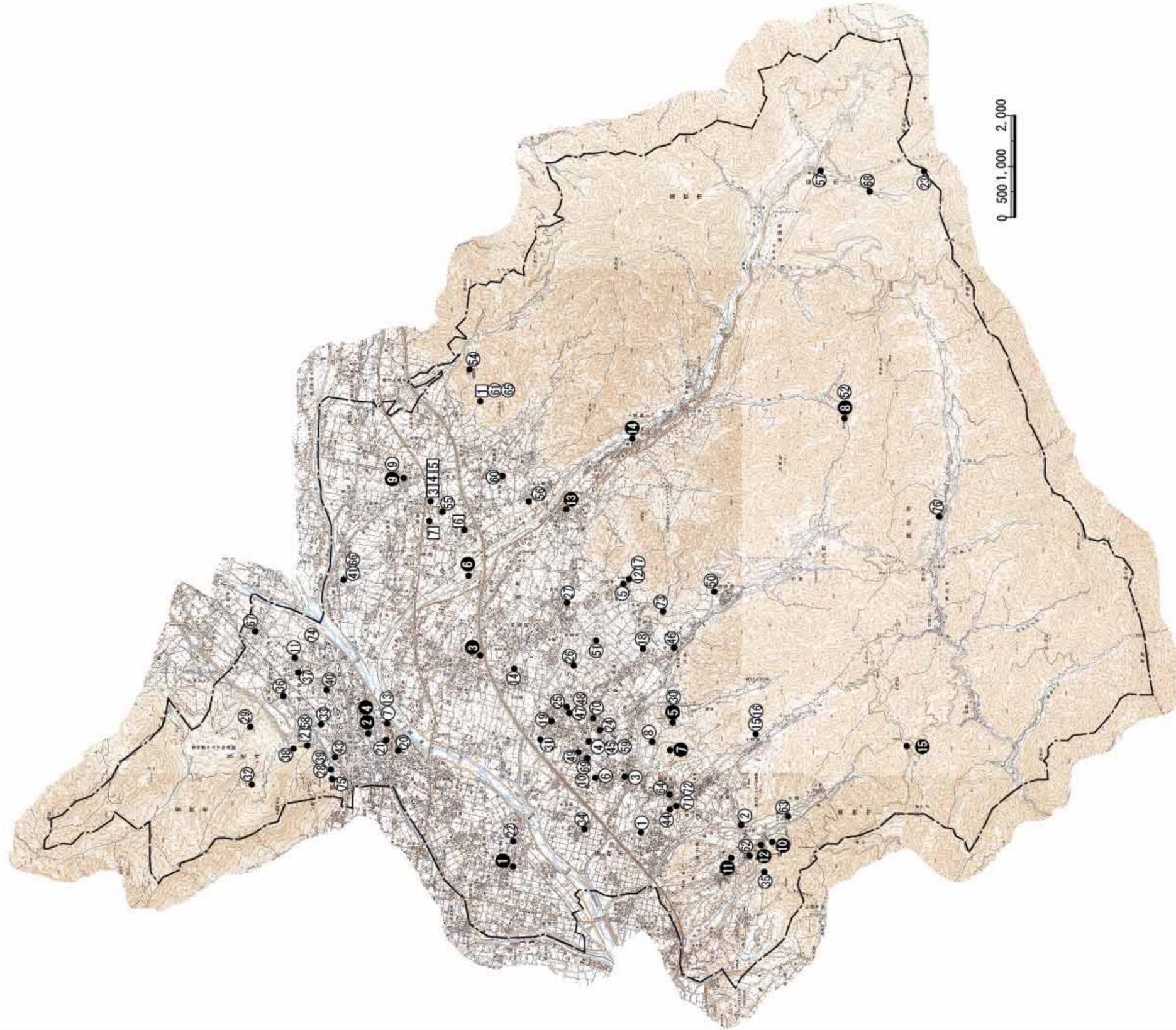
市指定文化財一覧表

NO	名 称	種 別	所在地 所有者または管理者
1	石橋八幡神社本殿	建 造 物	境川町石橋2096 石橋八幡神社
2	常楽寺の五輪塔	建 造 物	境川町藤袋2446 常楽寺
3	本光寺山門	建 造 物	八代町米倉872 本光寺
4	定林寺山門	建 造 物	八代町南747 定林寺
5	荻野家住宅	建 造 物	御坂町大野寺1474 個人
6	薬師堂 附木造薬師如来坐像	建 造 物	八代町永井1543 瑜伽寺
7	普賢願生稻荷堂本殿	建 造 物	石和町市部1023 遠妙寺
8	岡八幡神社の石造明神鳥居	建 造 物	八代町岡1250 岡八幡神社
9	浅間神社拝殿 附旧材 1 枚	建 造 物	一宮町一ノ宮1684 浅間神社
10	江戸中期民家	建 造 物	八代町南796 笛吹市
11	賀茂春日神社本殿	建 造 物	春日居町加茂319 賀茂春日神社
12	福光園寺鐘楼門	建 造 物	御坂町大野寺2019-2 福光園寺
13	仁王門及び総門	建 造 物	石和町市部1023 遠妙寺

NO	名 称	種 別	所在地 所有者または管理者
14	小山城主穴山伊予守信永及び一族郎党に関する歴史資料(五輪塔及び位牌)	建 造 物	御坂町二之宮513 常楽寺
15	聖応寺仏殿・開山堂 附仏殿建立日記 仏殿建立萬請拂決算目録・仏殿棟祭記	建 造 物	境川町大黒坂1090 聖応寺
16	聖応寺反橋 附棟札1枚	建 造 物	境川町大黒坂1090 聖応寺
17	灯籠	建 造 物	御坂町大野寺2019-2 福光園寺
18	梅の木石幢	建 造 物	八代町竹居2056 八代町竹居区長
19	能成寺跡 附五輪塔群	史 跡	八代町北1671-2他 八代町北区長
20	石和陣屋跡	史 跡	石和町市部720 笛吹市
21	石和本陣跡	史 跡	石和町市部1051 個人
22	武田信重の墓	史 跡	石和町小石和372 成就院
23	御坂城跡	史 跡	御坂町 御坂峠 山梨県
24	地藏塚古墳	史 跡	八代町南404 八代町南区森の上部長
25	団栗塚古墳	史 跡	八代町北1323 南北熊野神社
26	小山城跡	史 跡	八代町高家1239他 八代町高家区長
27	弾誓窟	史 跡	御坂町下野原1260 御坂中学校体育館下
28	島田富重郎の墓	史 跡	石和町松本610 大蔵経寺
29	天神のこし古墳	史 跡	春日居町鎮目字関東林地内 春日居町徳条区
30	盃塚古墳	史 跡	八代町岡2195 笛吹市
31	狐塚古墳	史 跡	八代町南2050 南集落センター管理運営委員会
32	菩提山長谷寺	史 跡	春日居町鎮目字菩提地内 長谷寺
33	芍薬塚	史 跡	春日居町鎮目526-2 個人
34	八幡塚古墳	史 跡	八代町増利1918 馬蔵神社氏子総代
35	牛居沢の窯跡	史 跡	境川町藤袋48・6858-13 個人
36	青山家墓地	史 跡	春日居町熊野堂410-2 個人
37	寺本廃寺塔址	史 跡	春日居町寺本256 個人
38	狐塚古墳	史 跡	春日居町鎮目1786 個人
39	大蔵経寺建物跡	史 跡	石和町松本610 大蔵経寺
40	辻保順守瓶の墓	史 跡	春日居町国府367 大中院
41	瑞蓮寺石臼参道 附供養塔	名 勝	一宮町田中408 瑞蓮寺
42	大口山のモウセンゴケ群生地	天然記念物	八代町竹居5740他 笛吹市
43	このてがしわ	天然記念物	石和町松本512 個人
44	小山神主のキンモクセイ	天然記念物	境川町小山1163 個人
45	定林寺カヤ	天然記念物	八代町南747 定林寺
46	楞嚴寺のカヤ	天然記念物	八代町竹居796 楞嚴寺
47	熊野神社のコウヤマキ	天然記念物	八代町北1615 南北熊野神社
48	熊野神社のイチョウ	天然記念物	八代町北1615 南北熊野神社
49	荒神堂のケヤキ	天然記念物	八代町南1206 八代町南区長崎部長
50	広済寺のヒイラギ	天然記念物	八代町奈良原373 広済寺
51	高家熊野神社社叢のカシ群	天然記念物	八代町高家2355 高家熊野神社
52	檜峰神社大杉	天然記念物	御坂町上黒駒 檜峰神社
53	ハコネサンショウウオ棲息地	天然記念物	境川町藤袋 恩賜県有財産名所山保護委員会
54	蜂城山のヤマボウシ	天然記念物	一宮町石(蜂城山中腹) 一宮町石区
55	長昌寺のキンモクセイ	天然記念物	一宮町末木112 長昌寺
56	神明社櫻の叢林	天然記念物	一宮町市之蔵960 神明社
57	オオバボダイジュ	天然記念物	御坂町藤野木1825 個人
58	山梨岡神社のフジ	天然記念物	春日居町鎮目1696 山梨岡神社
59	二子塚のサワラ	天然記念物	八代町南556-1 定林寺
60	清泉寺のキャラ木	天然記念物	一宮町新巻506 清泉寺

NO	名 称	種 別	所在地 所有者または管理者
61	浅間神社摂社山宮神社の夫婦杉	天然記念物	一宮町一ノ宮1705 浅間神社
62	藤堡のナシ	天然記念物	境川町藤堡139-2 個人
63	藤堡の滝のケンボナシ群	天然記念物	境川町大窪597-2 境川村大窪区
64	小山のタラヨウ	天然記念物	境川町小山684 個人
65	浅間神社摂社山宮神社のカタクリ群落	天然記念物	一宮町一ノ宮1705 浅間神社
66	瑞蓮寺の鶴亀松	天然記念物	一宮町田中408 瑞蓮寺
67	一行寺のカヤ	天然記念物	春日居町桑戸299-1 一行寺
68	大トチノキ	天然記念物	御坂町 御坂路御坂峠手前 山梨県
69	郷土館敷地内の庭木群	天然記念物	八代町南796 笛吹市
70	森の上のヒイラギ一本	天然記念物	八代町南344 個人
71	小山若宮神社の大ナラ	天然記念物	境川町小山1027 若宮神社
72	小山若宮神社のシラカシ	天然記念物	境川町小山1027 若宮神社
73	花鳥山一本杉	天然記念物	八代町竹居・御坂町竹居 竹居協議会
74	長慶寺のコツブガヤ	天然記念物	春日居町小松893 長慶寺
75	檜群生林	天然記念物	石和町松本615 物部神社
76	上芦川諏訪神社の大ケヤキ	天然記念物	芦川町上芦川704 諏訪神社

42,53 は地図に場所が記載してありません



凡 例	
□	国指定文化財
●	県指定文化財
○	市指定文化財

笛吹市 文化財位置図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平19関複、第148号)」

埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	所在地
屋敷ノ内遺跡	八代町増利字屋敷ノ内1851外
塚越遺跡	八代町増利字塚越180外
神ノ木遺跡	八代町増利字神ノ木120外
東鎌田遺跡	八代町増利字東鎌田203-1外
欠ノ畑遺跡	八代町増利字欠ノ畑477外
一町五反遺跡	八代町増利字一町五反432外
沢又木遺跡	八代町増利字沢又木400外
角田遺跡	八代町永井字角田507-1外
壺町田遺跡	八代町永井字壺町田466外
上反田遺跡	八代町増利字上反田312外
穴田遺跡	八代町南字穴田3542外
柳田遺跡	八代町南字柳田3289外
泉田遺跡	八代町南字泉田4158外
雁甲B遺跡	八代町南字雁甲3980外
宮田遺跡	八代町南字宮田3631外
雁甲A遺跡	八代町南字雁甲3901外
渋田遺跡	八代町南字渋田2940-1外
芦川田遺跡	八代町南字芦川田3763外
身洗澤遺跡	八代町南字身洗澤4600外
鶴辺遺跡	八代町南字鶴辺4809外
三原沢遺跡	八代町北字三原沢2665-1外
北・向田遺跡	八代町北字向田3281外
福田遺跡	八代町永井字福田568外
下長沢遺跡	八代町永井字下長沢330外
馬見塚遺跡	八代町永井字馬見塚230外
安事田遺跡	八代町永井字安事田868外
長沢遺跡	八代町永井字長沢168外
横田遺跡	八代町永井字横田85外
下長崎遺跡	八代町永井字下長崎1709外
豊気遺跡	八代町永井字豊気1348外
南居遺跡	八代町米倉字南居1223外
米倉・向田遺跡	八代町米倉字向田1091-1外
町屋遺跡	八代町米倉字町屋47外
今宮遺跡	八代町米倉字今宮142外
天神原遺跡	八代町米倉字天神原197外
宮之後遺跡	八代町永井字宮之後1524外
長慶寺遺跡	八代町永井字長慶寺1472外
下原遺跡	八代町岡字下原871外
向原遺跡	八代町南字向原655外
根岸遺跡	八代町南字根岸3078外
扇田遺跡	八代町南字扇田2992外
弁戈天遺跡	八代町南字弁戈天1524外
長崎遺跡	八代町南字長崎1264外
五里原遺跡	八代町南字五里原1199外
真道澤遺跡	八代町南字真道澤1646外
俣ノ下遺跡	八代町南字俣ノ下1121外
神田遺跡	八代町南字神田1955外
原遺跡	八代町南字原746外
二子塚遺跡	八代町南字二子塚560外

遺跡名	所在地
掘ノ内遺跡	八代町南字掘ノ内924-1外
大庭遺跡	八代町北字大庭1725外
和泉遺跡	八代町北字和泉1846外
竹之内遺跡	八代町北字竹之内1621外
奴白遺跡	八代町北字奴白1592外
森ノ上南遺跡	八代町南字森ノ上南324外
山ノ神遺跡	八代町南字山ノ神239外
森ノ上北遺跡	八代町南字森ノ上北341外
宮川遺跡	八代町南字宮川109-1外
八王子遺跡	八代町南字八王子459外
伊勢之宮遺跡	八代町北字伊勢之宮1290外
上小下遺跡	八代町北字上小下1518外
久保A遺跡	八代町北字久保1416外
下神之木遺跡	八代町北字下神之木1155外
上神之木遺跡	八代町北字上神之木1112外
金地蔵遺跡	八代町北字金地蔵1365外
御崎林遺跡	八代町北字御崎林949-2外
堀川遺跡	八代町北字堀川881外
久保B遺跡	八代町北字久保1423-1外
下小下遺跡	八代町北字下小下1826-1外
芝草遺跡	八代町北字芝草520外
大橋遺跡	八代町北字大橋613外
川後塚遺跡	八代町北字川後塚682-1外
絵毛遺跡	八代町北字絵毛4051-1外
綿熨斗遺跡	八代町北字綿熨斗4254外
丸山遺跡	八代町北字丸山44外
東小山A遺跡	八代町高家字東小山1255外
東小山B遺跡	八代町高家字東小山1309外
東小山C遺跡	八代町高家字東小山1233外
宮ノ後遺跡	八代町高家字宮ノ後2450外
中丸遺跡	八代町高家字中丸1918外
横堰遺跡	八代町高家字横堰1568外
高家・御崎遺跡	八代町高家字御崎906外
塚田遺跡	八代町高家字塚田807外
土井原遺跡	八代町米倉字土井原339-1外
沢添遺跡	八代町岡字沢添455外
北割遺跡	八代町岡字北割297-2外
岡・村上遺跡	八代町岡字村上217外
南・村上遺跡	八代町南字村上79外
浅見原遺跡	八代町高家字浅見原138-1外
大久保遺跡	八代町高家字大久保222外
清水遺跡	八代町高家字清水269外
田中畑遺跡	八代町高家字田中畑60外
早稻田遺跡	八代町高家字早稻田651外
法花田遺跡	八代町高家字法花田534外
八反田A遺跡	八代町高家字八反田466外
八反田B遺跡	八代町高家字八反田494外
一町田遺跡	八代町高家字一町田2196外
梅ノ木田遺跡	八代町竹居字梅ノ木田2049外
青木田遺跡	八代町竹居字青木田2178外

遺跡名	所在地
後藤遺跡	八代町竹居字後藤2128外
前田遺跡	八代町竹居字前田1938
梨木遺跡	八代町竹居字梨木1551外
中原遺跡	八代町竹居字中原1742外
蝙蝠塚遺跡	八代町竹居蝙蝠塚1647外
南原遺跡	八代町竹居字南原1483-2外
久保畑遺跡	八代町竹居久保畑1275外
柚木遺跡	八代町竹居字柚木1222外
竹居・御崎遺跡	八代町竹居字御崎773外
土原遺跡	八代町竹居字土原333外
花鳥山遺跡	八代町竹居字富士塚5128外
深沢道上遺跡	八代町竹居字深沢道上1065外
切付平遺跡	八代町竹居字切付平947外
欠沢遺跡	八代町岡字欠沢2829-86外
大覚林遺跡	八代町岡字茱萸沢2787-3外
稲山原遺跡	八代町岡字稲山原1822外
銚子原遺跡	八代町岡字稲山原2196外
八幡遺跡	八代町岡字八幡1282-2外
夜長遺跡	八代町米倉字夜長440外
大仏塚遺跡	八代町米倉字大仏塚472外
花田遺跡	八代町米倉字花田701外
金山遺跡	八代町米倉字金山1760外
竜安寺川西遺跡	八代町米倉字上ノ平2180-11外
上ノ平A遺跡	八代町米倉字上ノ平2145-1外
上ノ平B遺跡	八代町米倉字上ノ平2093外
大谷沢A遺跡	八代町米倉字大谷沢2254-2外
大谷沢B遺跡	八代町米倉字大谷沢
旭日長者屋敷遺跡	八代町岡字稲山原
夕日長者屋敷遺跡	八代町岡字大山田
坂下遺跡	八代町奈良原字坂下144外
広濟寺遺跡	八代町奈良原字茶畑861外
堂ヶ入口遺跡	八代町奈良原字堂ヶ入口706外
牛王神社遺跡	八代町竹居牛王神社の東
大口山A遺跡	八代町竹居字大口山5740-472外
味噌糟山遺跡	八代町竹居字大口山山中
大口山B遺跡	八代町竹居字大口山5740-662外
大口山C遺跡	八代町竹居字大口山5740-829外
八幡さん古墳	八代町増利字塚越1918外
弁財天塚古墳	八代町南字柿木田
狐塚古墳	八代町南字前田2050外
樹塚(莊塚)古墳	八代町永井字木塚1764-1外
無名古墳	八代町永井字荒神1753外
物見塚古墳	八代町永井字塚越1666
鎧塚古墳	八代町南字五里原1167
能成寺塚古墳	八代町北字生板橋1668外
信守塚古墳	八代町北字双白1587
無名古墳	八代町北字竹之内1615-1
伊勢塚古墳	八代町北字伊勢之宮1302-2外
団栗塚古墳	八代町北字伊勢之宮1323外
真根子塚古墳	八代町北字伊勢之宮1297外

遺跡名	所在地
無名古墳	八代町北字上小下1466
双子塚古墳	八代町南字二子塚556-1外
雌蝶塚古墳	八代町米倉字御所868
雄蝶塚古墳	八代町米倉字御所864-2外
無名古墳	八代町米倉字今宮824-1
大塚古墳	八代町米倉字今宮146外
古柳塚古墳	八代町永井字御崎1407
地藏塚古墳	八代町南字塚ノ越404
山神塚古墳	八代町南字森ノ上南257-1
馬見塚古墳	八代町南字森ノ上南244
猿子塚古墳	八代町南字山ノ神234-1
無名古墳	八代町岡字沢添348
無名古墳	八代町米倉字土井原312
無名古墳	八代町米倉字土井原312
石塚古墳	八代町米倉字土井原312
蝙蝠塚古墳	八代町岡字沢添506
無名古墳	八代町岡字柚ノ木510
無名古墳	八代町岡字南割598-2
芋塚古墳	八代町岡字北割293-1
無名古墳	八代町岡字北割235
無名古墳	八代町岡字村上227
無名古墳	八代町岡字村上222
無名古墳	八代町岡字村上171
無名古墳	八代町竹居字岡ノ上1689
蝙蝠塚第一号墳	八代町竹居字蝙蝠塚1679
蝙蝠塚古墳	八代町竹居字蝙蝠塚1680
狐塚古墳	八代町竹居字蝙蝠塚1670
無名古墳	八代町竹居字梨木1572
無名古墳	八代町竹居字梨木1550
無名古墳	八代町竹居字南原1501-1外
無名古墳	八代町竹居字南原1477外
無名古墳	八代町竹居字久保畑1270-3外
おこり塚古墳	八代町竹居字追分1119-1外
無名古墳	八代町竹居字柚木1227-1外
こおり塚古墳	八代町竹居字三光1209
御崎古墳	八代町竹居字御崎780
御崎二号墳	八代町竹居字御崎780
無名古墳	八代町竹居字土原332-2
無名古墳	八代町竹居字土原324
八幡塚古墳	八代町奈良原字下林945外
大仏塚古墳	八代町米倉字大仏塚427
鳩峰古墳	八代町米倉字鳩峰2505
無名古墳	八代町岡字八幡1251-5外
竜塚古墳	八代町米倉字上の平2087
富士塚古墳	八代町米倉字上の平2085-51
盃塚古墳	八代町岡字稻山原2195外
銚子塚古墳	八代町岡字稻山原2286外
無名古墳	八代町岡字稻山原2152外
無名古墳	八代町岡字稻山原2066-16外
無名古墳	八代町岡、銚子塚の南東約300m

遺跡名	所在地
屋敷ノ内	八代町増利字屋敷ノ内・門ノ内
武田信守館跡	八代町北字大庭1750-1外
能成寺跡	八代町北字奴白1597-1外
奴白屋敷跡	八代町北字奴白1603-1外
飯田氏屋敷跡	八代町北字竹之内1616外
下新兵衛屋敷跡	八代町南字堀ノ内872-1外
浪人屋敷跡	八代町南字森ノ上北345外
米倉氏館跡	八代町米倉字御所864-1外
米倉氏館跡	八代町米倉字土井原
小山城址	八代町高家字東小山1240外
高家三郎屋敷跡	八代町高家字村中452-2外
増田・永井条里制遺構	八代町増利・大間田・永井
米倉A条里制遺構	八代町米倉字梓田外
米倉B条里制遺構	八代町米倉字御所外
米倉C条里制遺構	八代町米倉字前田外
北条里制遺構	八代町北字境田外
高家条里制遺構	八代町高家字向田外
亀甲遺跡	御坂町成田字亀甲2032
横畑遺跡	御坂町井之上字横畑1878
出口遺跡	御坂町成田字出口1217
不動河原遺跡	御坂町成田不動河原302
赤目田遺跡	御坂町国衛字赤目田632
山王遺跡	御坂町井之上字山王762
鋤柄田遺跡	御坂町井之上字鋤柄田1224
天神前遺跡	御坂町井之上字天神前1066
扇田遺跡	御坂町井之上字扇田724
中通遺跡	御坂町二之宮字中通605
後畑遺跡	御坂町二之宮字後畑2580
宮ノ後遺跡	御坂町八千蔵字宮の後314
赤根遺跡	御坂町八千蔵字赤根田359
柿ノ木遺跡	御坂町夏目原字柿ノ木728
道中根遺跡	御坂町蕎麦塚字道中根688
下原遺跡	御坂町蕎麦塚字下原630
橋詰遺跡	御坂町夏目原字橋詰527
宮の前遺跡	御坂町夏目原字宮の前11
御幣遺跡	御坂町夏目原字御幣330
午新田遺跡	御坂町夏目原字午新田1493
力二田遺跡	御坂町下野原字力二田2
北川遺跡	御坂町下野原字北川56
葉舞場遺跡	御坂町金川原字葉舞場
歸久保遺跡	御坂町金川原字歸久保964
田代遺跡	御坂町尾山字田代59の2
向原遺跡	御坂町尾山字向原1160
北平遺跡	御坂町大野寺字北平1728
原遺跡	御坂町大野寺字原1947
三ツ沢遺跡	御坂町大野寺字三ツ沢98
三光遺跡	御坂町竹居南字三光1188
亀甲塚古墳	御坂町成田字亀甲塚2302
ショウ塚古墳	御坂町成田字南畑598
姥塚古墳	御坂町井之上字姥塚941

遺跡名	所在地
無名墳	御坂町井之上字姥塚986
無名墳	御坂町井之上字天神前1011-2
無名墳	御坂町井之上字間中1462
無名墳	御坂町夏目原字居村1350
無名墳	御坂町夏目原字地耕免北割81
狐塚	御坂町井之上字金塚1629
無名墳	御坂町井之上字金塚1667-2
無名墳	御坂町井之上字天神原1675
蝙蝠塚	御坂町井之上字八反久保2004
薬師塚	御坂町下野原字北川5657
蝙蝠塚	御坂町下野原字木爪原252
狐塚	御坂町下野原字狐塚379
無名墳	御坂町下野原字狐塚384
シャブギ塚	御坂町下野原字木爪原352
うとうぎ塚	御坂町下野原字狐塚462
弾誓塚	御坂町下野原字花掛1253-1
無名墳	御坂町下野原字花掛1216
伊勢塚	御坂町下野原字花掛1250
千体塚	御坂町下野原字花掛1261
金鑄塚	御坂町下野原字花掛1231-3
無名墳	御坂町下野原字神の木1052
無名墳	御坂町蕎麦塚字村上474
無名墳	御坂町蕎麦塚字村上507～509
稻荷塚	御坂町蕎麦塚字下原626
無名墳	御坂町栗合字狐塚385
御経塚	御坂町栗合字原町44
無名墳	御坂町金川原字大岡1373-1
藤塚(浅間塚)	御坂町金川原字八反久保603
無名墳	御坂町下黒駒123
藤塚	御坂町尾山字向原1115
山神塚	御坂町二階字北平1638-2
京塚	御坂町大野寺字原1935
無名墳	御坂町竹居南字仁王114
無名墳	御坂町竹居南字仁王114
荒神塚	御坂町下黒駒字荒神原2430
文殊稻荷塚	御坂町下黒駒字屋戸林2519
無名墳	御坂町下黒駒字南長田
中丸遺跡	御坂町上黒駒字中丸
上之山遺跡	御坂町上黒駒字上之山
駒留小丸遺跡	御坂町上黒駒字小丸
桂野遺跡	御坂町上黒駒字桂野大道上・桂野大道下
屋戸林遺跡	御坂町下黒駒字屋戸林
八反田遺跡	御坂町上黒駒字八反田
花鳥山遺跡	御坂町竹居字陣ヶ平
埋没条里遺構	御坂町成田・国衛・二之宮
下成田遺跡	御坂町成田字下成田
向田遺跡	御坂町大野寺字向田945

遺跡名	所在地
金川原古墳群	御坂町金川原字葉舞場69
長田古墳群	御坂町下黒駒字北長田・中長田・大長田原
大野屋敷	御坂町尾山字大岱
小物成山	御坂町大野寺字城山
黒駒氏屋敷	御坂町上黒駒字笹ヶ入
御坂城址	御坂町藤野木
宮下・龍光寺遺跡	御坂町大野寺字宮下
地耕免遺跡	御坂町成田字地耕免
横堰遺跡	御坂町上黒駒字横堰
半行寺(廃寺)遺跡	御坂町成田字半行寺
富士塚	御坂町下黒駒字富士塚
上坊地遺跡	御坂町大野寺字上坊地
市六遺跡	御坂町大野寺字市六
成田境沢遺跡	御坂町成田字境沢
西馬鞭遺跡	御坂町上黒駒字西馬鞭
上黒駒バイパス上/原下割遺跡	御坂町上黒駒字上/原下割
二之宮氏屋敷跡	御坂町二之宮
石和高校周辺遺跡	御坂町成田字長塚
荒神原遺跡	御坂町下黒駒字荒神原
三口神遺跡	御坂町下黒駒字三口神
大ネギ遺跡	御坂町成田
當代遺跡	御坂町成田
清水遺跡	石和町松本字清水
鳥居遺跡	石和町松本字鳥居
鞍掛塚古墳	石和町松本字大蔵経寺山
七つ石1号墳	石和町松本字大蔵経寺山
七つ石2号墳	石和町松本字大蔵経寺山
七つ石3号墳	石和町松本字大蔵経寺山
七つ石4号墳	石和町松本字大蔵経寺山
七つ石5号墳	石和町松本字大蔵経寺山
小石田遺跡	石和町松本字小石田
畦作遺跡	石和町松本字畦作
無名古墳	石和町松本字大蔵経寺山
大蔵経寺山15号墳	石和町松本字大蔵経寺山
無名古墳	石和町松本字大蔵経寺山
道祖神塚古墳	石和町松本字寺の前
さんごうじ塚古墳	石和町松本字寺の前
無名古墳	石和町松本字寺の前
大蔵経寺前遺跡	石和町松本字寺の前
松本塚/越遺跡	石和町松本字塚越・三門
大西遺跡	石和町松本字大西町
中直遺跡	石和町松本字中直
後田遺跡	石和町山崎字後田
古屋敷遺跡	石和町山崎字古屋敷
石和高校周辺遺跡	石和町市部字長塚
小石原遺跡	石和町下平井字南門・小石原

遺跡名	所在地
東田遺跡	石和町下平井字東田
下前田遺跡	石和町上平井字下前田
御堂遺跡	石和町上平井字御堂
満中田遺跡	石和町中川字満中田
宮の上遺跡	石和町上平井字宮の上
坪井道上遺跡	石和町上平井字赤井・坪井道上
赤井遺跡	石和町上平井字赤井
御幸道遺跡	石和町上平井字御幸道上
中川松本遺跡	石和町中川字松本
中新井遺跡	石和町中川字中新井
宮の前遺跡	石和町中川字宮の前
狐原遺跡	石和町中川字狐原
一丁田遺跡	石和町中川字一丁田
宮の前栗原塚古墳	石和町中川字宮の前
堤下町遺跡	石和町四日市場字堤下町
堤南遺跡	石和町四日市場字日の出
上堀遺跡	石和町小石和字上堀
塚の越遺跡	石和町小石和字塚越
浅間塚(赤塚)遺跡	石和町小石和字向田
手箱塚(天白塚)古墳	石和町小石和字向田
高田塚古墳	石和町小石和字大間田
横田遺跡	石和町小石和字横田
成就院遺跡	石和町小石和372番地外
観音溝遺跡	石和町小石和字観音溝
新開町南遺跡	石和町窪中島字新開町
新開町北遺跡	石和町窪中島字新開町
新開町東遺跡	石和町窪中島字新開町
観音寺前遺跡	石和町市部字観音寺前
伊勢の宮遺跡	石和町山崎字伊勢宮
茶かん遺跡	石和町中川字茶かん
八田屋敷内遺跡	石和町八田字大郭
石和陣屋跡	石和町市部字広岡町上
石橋条里制遺跡	境川町大坪・三櫛・石橋
石橋条里制遺跡(榎田地区)	境川町石橋1448外
石橋遺跡	境川町石橋・三櫛
川久保古墳	境川町三櫛3
先屋敷古墳	境川町石橋2314-1
毘沙門遺跡	境川町石橋2208外
前間田条里制遺跡	境川町石橋・小山・前間田
竜安寺川西遺跡	境川町前間田1151外
仲原遺跡	境川町前間田・大黒坂
立塚古墳	境川町大黒坂207
真福寺遺跡	境川町大黒坂352外
曾利田遺跡	境川町小山1731外
中丸東遺跡	境川町小山763外
地藏山古墳	境川町小山960
大塚古墳	境川町小山993
中丸遺跡	境川町小山1008外
山の神塚一号墳	境川町小山1028
山の神塚二号墳	境川町小山1028

遺跡名	所在地
荒神塚古墳	境川町小山683
小山中村一号墳	境川町小山647
小山中村二号墳	境川町小山684
小山中村三号墳	境川町小山685
小山中村四号墳	境川町小山701
中村遺跡	境川町小山676-1外
東窪一号墳	境川町小山591-4
東窪二号墳	境川町小山583-1
東西原遺跡	境川町前間田1346-1外
西窪古墳	境川町小山1227-9
西原古墳	境川町小山340
西原遺跡	境川町小山454外
道見塚古墳	境川町小山283
堤遺跡	境川町小山282外
柳原遺跡	境川町小黒坂1993-1外
金山遺跡	境川町小黒坂1639-5外
蛇山一号墳	境川町小黒坂1400-1
蛇山二号墳	境川町小黒坂1422-2(未確定)
蛇山三号墳	境川町小黒坂1422-2(未確定)
蛇山四号墳	境川町小黒坂1424(未確定)
蛇山五号墳	境川町小黒坂1424(未確定)
蛇山六号墳	境川町小黒坂1424(未確定)
蛇山七号墳	境川町小黒坂1424(未確定)
蛇山八号墳	境川町小黒坂1425(未確定)
京原遺跡	境川町小山34-1外
立石北遺跡	境川町小黒坂21外
宝塚古墳	境川町小黒坂132-1
神ノ木経塚	境川町小黒坂80
御崎塚古墳	境川町小黒坂600
二子塚古墳	境川町小黒坂695-1
一の沢遺跡	境川町小黒坂722外
石尊塚	境川町小黒坂269
浅間塚古墳	境川町小黒坂365
一の沢一号墳	境川町小黒坂483
一の沢二号墳	境川町小黒坂486
一の沢三号墳	境川町小黒坂438
一の沢四号墳	境川町小黒坂385
物見塚古墳	境川町小黒坂2266-9
上嶽遺跡	境川町小黒坂941外
砂原山遺跡	境川町小黒坂2268外
寺平遺跡	境川町小黒坂2210外
机遺跡	境川町小黒坂2266外
亀の子遺跡	境川町小黒坂2207外
手古松遺跡	境川町小黒坂2210-10外
丸山塚古墳	境川町大窪
子之神社遺跡	境川町大窪
川向塚古墳	境川町藤袋1445
口開遺跡	境川町三櫛828-2
下向窯跡	境川町三櫛819外
馬乗山一号墳	境川町藤袋3522

遺跡名	所在地
馬乗山二号墳	境川町藤袋3522
諏訪尻遺跡	境川町藤袋4000外
天神山遺跡	境川町藤袋4376外
下原遺跡	境川町藤袋5391外
飯潰一号墳	境川町藤袋4400
飯潰二号墳	境川町藤袋5393
飯潰遺跡	境川町藤袋5705外
天神前遺跡	境川町藤袋5300外
諏訪前一号墳	境川町藤袋3912
諏訪前二号墳	境川町藤袋3912
諏訪前三号墳	境川町藤袋3912
諏訪前遺跡	境川町藤袋4583外
諏訪前南遺跡	境川町藤袋5808外
八乙女遺跡	境川町藤袋3400外
後子の神遺跡	境川町藤袋3089外
塚の越一号墳	境川町藤袋3087
塚の越二号墳	境川町藤袋3017
塚の越三号墳	境川町藤袋3017
北ノ宮遺跡	境川町藤袋2713-1外
大塚古墳	境川町藤袋2382-10
北ノ宮東遺跡	境川町藤袋2610-1外
蘇在家遺跡	境川町藤袋4818外
室屋遺跡	境川町藤袋1505外
辻遺跡	境川町藤袋2415外
大塚遺跡	境川町藤袋2116外
大塚一号墳	境川町藤袋1063
大塚二号墳	境川町藤袋963
大塚三号墳	境川町藤袋941
大塚四号墳	境川町藤袋942
大塚五号墳	境川町藤袋955
大塚六号墳	境川町藤袋908
水口四号墳	境川町藤袋839-1
水口一号墳	境川町藤袋728
水口二号墳	境川町藤袋755-2
水口三号墳	境川町藤袋731-1
水口遺跡	境川町藤袋728外
滝ヶ原一号墳	境川町藤袋440-2
滝ヶ原二号墳	境川町藤袋410-1
智光寺遺跡	境川町藤袋335外
滝ヶ原三号墳	境川町藤袋376-13
切付遺跡	境川町藤袋273外
子の神古墳	境川町藤袋268-1
北切付遺跡	境川町藤袋172外
藤袋遺跡	境川町藤袋248-1外
牛居沢竊跡	境川町藤袋6858-13外
毘沙門塚古墳	境川町大窪307-2
釜前遺跡	境川町大窪字釜前
口明塚古墳	境川町大窪624-1
温湯遺跡	境川町大窪700外
浅霧塚古墳	境川町大窪897

遺跡名	所在地
赤羽遺跡	境川町大窪931外
金刀毘羅神社遺跡	境川町藤袋6986
北ノ山遺跡	境川町寺尾4398外
物見塚遺跡	境川町寺尾4103外
物見塚古墳	境川町寺尾4102
天神遺跡	境川町寺尾4226外
中寺尾経塚	境川町寺尾3742(未確定)
白戸遺跡	境川町寺尾3452-1外
北原遺跡	境川町寺尾3130外
坂下遺跡	境川町寺尾3308外
上原遺跡	境川町寺尾2885外
中原遺跡	境川町寺尾2784外
馬場遺跡	境川町寺尾1551外
前付遺跡	境川町寺尾1462外
大祥寺跡	境川町寺尾1437-6外
東山北遺跡	境川町寺尾150外
上の平遺跡	境川町寺尾209外
釜戸A遺跡	芦川町鶯宿字釜戸
釜戸B遺跡	芦川町鶯宿字釜戸
釜戸C遺跡	芦川町鶯宿字釜戸
長窪遺跡	芦川町鶯宿字長窪
入沢遺跡	芦川町中芦川字入沢
宮之上遺跡	芦川町中芦川字宮之上
中芦川東原遺跡	芦川町中芦川字東原
矢名目遺跡	芦川町中芦川字矢名目
竹の久保遺跡	芦川町新井原字竹の久保
猪之原遺跡	芦川町新井原字猪之原
諏訪平遺跡	芦川町上芦川字諏訪平
中の入遺跡	芦川町上芦川字中の入
東原遺跡	芦川町上芦川字東原
黒内遺跡	芦川町上芦川字中の入
釈迦ヶ岳遺跡	芦川町上芦川字中の入
中の島遺跡	芦川町鶯宿字中の島
堂所遺跡	芦川町中芦川字堂所
卯ツ木田	一宮町北野呂字卯ツ木田534外
塚田	一宮町北野呂字塚田307付近
貫位	一宮町南野呂字貫位469外
穴地蔵	一宮町中尾字穴地蔵994外
宮田	一宮町南野呂字宮田750外
馬込	一宮町南野呂字馬込西割1642外
中尾地蔵久保	一宮町中尾字地蔵久保1391外
妻神	一宮町中尾字妻神1550外
小城北	一宮町小城字梅房356外
小城	一宮町小城字向313付近
伝軍団跡	一宮町小城字丸音田271-2外
前河原	一宮町北都塚字前河原530外
伊勢田	一宮町北都塚字伊勢田644外(極法寺北)
今宮	一宮町一ノ宮字今宮25外
桜坪	一宮町一ノ宮字桜坪871外
清水	一宮町本都塚字清水219外

遺跡名	所在地
金田	一宮町金田字大石町10-2外
筑前原北	一宮町金田字南畑町1163-1外
筑前原	一宮町東原字筑前397外
筑前原累跡	一宮町東原字宮東326-1外
橋立	一宮町東原字北畑54外
鷲堂	一宮町東原字北大内185-1
夕雨田	一宮町竹原田字夕雨田272外
後田	一宮町竹原田字後田町1097外
北腰巻	一宮町坪井字北腰巻700外
南西田	一宮町坪井字南西田1379外
大原	一宮町坪井字大原1986-1外
西前田	一宮町坪井字西前田1336外
東前田	一宮町坪井字東前田1270外
満願寺跡	一宮町竹原田字本村町1263-1外
西田町	一宮町東原字西田町15外
北大内	一宮町東原字北大内175-1外
桜畑	一宮町東原字桜畑260外
甲斐国分尼寺跡北	一宮町東原字後地601-1外
甲斐国分尼寺跡	一宮町東原字後地646外
松原	一宮町東原字松原717-1外
矢倉	一宮町東原字矢倉798外
甲斐国分寺跡	一宮町国分字六反110外
甲斐国分寺西	一宮町国分字御堂地153-1外
甲斐国分寺南	一宮町国分字南条223外
豆塚	一宮町国分字堀米290外
笠木地蔵	一宮町国分字笠木地蔵867-1外
北前田	一宮町国分字北前田584外
金山	一宮町国分字金山549-1外
竜ノ木	一宮町末木字竜ノ木575外
両ノ木神社	一宮町末木字竜ノ木608-1外
車地蔵	一宮町末木字車地蔵470外
石動	一宮町末木字石動77外
薬師堂	一宮町末木字薬師堂229外
慈眼寺北	一宮町末木字薬師堂343付近
鞍掛	一宮町末木字鞍掛795外
中新居	一宮町塩田字中新居496付近
北堀	一宮町塩田字北堀416-1外
天神原	一宮町塩田字天神原813外
楽音寺	一宮町塩田字新田944外
木地蔵	一宮町塩田字木地蔵1226外
三瀬農	一宮町市之蔵字三瀬農571外
宝福寺跡	一宮町市之蔵字一町田24・25付近
横田	一宮町市之蔵字横田215外
山王下	一宮町金沢字山王下64外
天狗平	一宮町金沢字天狗平917外
箕石	一宮町土塚字箕石1003外
南割	一宮町狐新居字南割683付近
新巻本村	一宮町新巻字本村482外
天神堂	一宮町土塚字天神堂558付近
東新居	一宮町土塚字坂西111-1外

遺跡名	所在地
上三口神	一宮町東新居字上三口神581・578付近
桧山田	一宮町東新居字桧山田816外
神沢	一宮町神沢字根岸126外
柳田	一宮町神沢字柳田358外
田村	一宮町石字田村4外
西田	一宮町地蔵堂字西田460外
西田北	一宮町地蔵堂字日出田50付近
山盛田	一宮町地蔵堂字山盛田326外
三本木	一宮町千米寺字三本木81外
地蔵窪	一宮町千米寺字地蔵窪296外
十二社	一宮町石字十二社227-2外
南屋敷	一宮町千米寺字南屋敷西割1063-1外
釈迦堂	一宮町千米寺字釈迦堂648-1外
若宮	一宮町石字若宮1254外
鎧塚A	一宮町石字鎧塚西1974外
鎧塚B	一宮町石字上大塚1756-1外
塚越	一宮町千米寺字塚越南691外
三口神平	一宮町南野呂字原1229-1外
未新田	一宮町中尾字未新田1869外
物見塚	一宮町千米寺字物見塚850・882外
山道添	一宮町千米寺字山道添880-1外
日向林	一宮町千米寺字日向林872-1外
東泉寺跡	一宮町石字京戸
蜂城跡	一宮町石字城平2321外
大積寺跡	一宮町土塚字大積寺1407-15外
旭山烽火台跡	一宮町金沢字旭(旭山頂上)
四ツ塚古墳群	一宮町国分字四ツ塚外
国分古墳群	一宮町国分字築地外
楽音寺古墳群	一宮町塩田字小新田楽音寺境内外
千米寺古墳群	一宮町千米寺・石
箕石古墳群	一宮町土塚字箕石1002-1外
経塚	一宮町北都塚字八ノ坪
都塚	一宮町北都塚字伊勢田
本都塚	一宮町本都塚字伊勢原(熊野神社)
慈眼寺西古墳	一宮町未木字薬師堂
経塚古墳	一宮町国分字経塚1135
狐塚古墳	一宮町国分字山ノ内505
金山塚古墳	一宮町塩田字天神原812
大神塚古墳	一宮町新巻字新屋529-1
文殊稻荷塚古墳	一宮町市之蔵字一町田77-4
浅間塚古墳	一宮町市之蔵字三瀬農600
御曹子塚古墳	一宮町市之蔵字御曹子塚647～650
天神塚古墳	一宮町市之蔵字天神窪682
鳥追塚古墳	一宮町市之蔵字鳥追塚264
天神堂塚古墳	一宮町土塚字天神堂558(未確定)
名代塚古墳	一宮町土塚字名代塚152(未確定)
東浅間塚古墳	一宮町東新居字大神原
粟塚古墳	一宮町土塚字粟塚(東新居地内飛地)
中尾条里	一宮町中尾・北野呂・南野呂・上矢作・一ノ宮・小城・北都塚・下矢作
本都塚条里	一宮町本都塚・金田

遺跡名	所在地
坪井条里	一宮町竹原田・坪井・田中
桜坪	一宮町上矢作字桜坪290-1外
北中原遺跡	一宮町塩田字北中原593外
狐原遺跡	一宮町竹原田字川原町1530外
西田町南遺跡	一宮町竹原田字川原口町1399外
上深田遺跡	一宮町金田字上深田479外
車居遺跡	一宮町一ノ宮字車居1590外
雨宮氏屋敷	一宮町末木字桜地蔵112外
早川氏屋敷	一宮町一ノ宮日出田701外
三枝氏屋敷	一宮町南野呂北宮田621外
辻氏屋敷	一宮町南野呂辻前263外
古屋氏屋敷	一宮町土塚東光401外
瑞蓮寺	一宮町田中東田408外
新巻屋敷	一宮町新巻本村480外
塩田屋敷	一宮町塩田天神原670-1外
浪人屋敷	一宮町国分御堂地149外
茶臼山烽火台跡	茶臼山頂上
中尾条里亀沢	一宮町北都塚亀沢295-1外
中尾条里神ノ木	一宮町南野呂神ノ木421-1外
西林	一宮町国分西林1082外
朝日塚	春日居町鎮目字菩提
備前塚	春日居町鎮目字日陰
船石塚	春日居町鎮目字日陰
日陰塚	春日居町鎮目字日陰
笹原塚1号墳	春日居町鎮目字日向
笹原塚2号墳	春日居町鎮目字日向
山伏塚	春日居町鎮目字日向
菩提山1号墳	春日居町鎮目字菩提
笹原塚3号墳	春日居町鎮目字日向
夫婦塚1号墳・2号墳	春日居町鎮目字日向
日向塚	春日居町鎮目字日向
浄念塚古墳	春日居町鎮目字日向
蝙蝠塚	春日居町鎮目字関東林
平林塚	春日居町鎮目字平林
死人塚	春日居町鎮目字平林
はたおり塚	春日居町鎮目字平林
無名塚	春日居町鎮目字寺の前
狐塚古墳	春日居町鎮目字寺の前
無名塚	春日居町鎮目字寺の前
寺の前2号墳	春日居町鎮目字寺の前
へび塚	春日居町鎮目字寺の前
無名塚	春日居町鎮目字寺の前
無名塚	春日居町鎮目字寺の前
御室山古墳	春日居町鎮目字日陰
天神のこし古墳	春日居町鎮目字関東林
田島稻荷塚古墳	春日居町鎮目字上町田
天神塚古墳	春日居町鎮目字上町田
鎌田塚古墳	春日居町鎮目字上町田
狐塚古墳	春日居町熊野堂字狐塚
中川田遺跡	春日居町下岩下字中川田

遺跡名	所在地
上町田遺跡	春日居町鎮目字上町田
市道遺跡	春日居町熊野堂字市道
保雲寺橋遺跡	春日居町鎮目字上町田
別田北遺跡	春日居町別田字花桜町
別田南遺跡	春日居町別田字前田町
熊野北遺跡	春日居町熊野堂字深田町
熊野南遺跡	春日居町熊野堂字藤木沢
大まま遺跡	春日居町鎮目字大まま・櫛田
裏町遺跡	春日居町加茂字裏町
加茂東遺跡	春日居町加茂字裏町
神東町遺跡	春日居町熊野堂・寺本
櫛田遺跡	春日居町鎮目字櫛田・小島田
大中寺遺跡	春日居町国府字大中寺
寺本廃寺遺跡	春日居町寺本字神東町・道万町
桑戸遺跡	春日居町桑戸字立石
加茂西遺跡	春日居町加茂字裏町
春日神社裏遺跡	春日居町加茂字榎町
国府遺跡	春日居町国府字大中寺・池ノ尻
寺の前1号墳	春日居町鎮目字寺の前
菩提山2号墳	春日居町鎮目字菩提
八幡塚	春日居町鎮目字上町田
笹原塚4号墳	春日居町鎮目字日向
梅沢1号墳	春日居町下岩下字梅沢
梅沢2号墳	春日居町下岩下字梅沢
小手城	春日居町鎮目字日陰
古城	春日居町鎮目字日陰
新城	春日居町鎮目字日陰
信虎誕生屋敷	春日居町下岩下字柳田
柳田遺跡	春日居町下岩下字柳田
小川奥右エ門屋敷跡	春日居町徳条字前田
平林2号墳	春日居町鎮目字平林
死人2号墳	春日居町鎮目字平林

4 国土利用区分の定義

利用区分（把握区分）	定 義	原則的な把握方法
農用地	農地法第2条第1項に定める農地及び採草放牧地の合計である。	農地 + 採草放牧地
農地	耕作の目的に供される土地であって畦畔を含む。	「耕地面積統計調査」の“田”及び“畑”の合計。
採草放牧地	農地以外の土地で、主として耕作又は養畜の事業のための採草又は放牧の目的に供されるもの。	「世界農林業センサス林業調査報告書」の“採草放牧に利用されている面積”のうち“森林以外の採草地（野草地）”。
森林	国有林と民有林の合計である。なお、林道面積は含まない。	国有林 + 民有林
国有林		林野庁所管国有林 + 官行造林地 + その他官庁所管国有林
林野庁所管国有林	林野庁所管法第2条に定める国有林野から採草放牧地を除いたもの。	「営林局事業統計書」の“機能類型別・林種別面積の総数”から“国有林野貸付使用地の放牧採草地”及び“国有林林道”を除いた面積。
官行造林地	旧公有林野等官行造林法第1条の規定に基づき契約を締結しているもの。	「営林局事業統計書」の“官行造林地の林種別面積”中の“林地”と“林地以外”の合計面積。
その他官庁所管国有林	林野庁以外の国が所有している森林法第2条第1項に定める森林。	「世界農林業センサス林業調査報告書」による。
民有林	森林法第2条第1項に定める森林であって同法同条第3項に定めるもの。	地域森林計画対象及び同計画対象外民有林の合計。
原野	「世界農林業センサス林業調査報告書」の“森林以外の草生地”から“採草放牧地”又は国有林野に係る部分を除いた面積である。	「世界農林業センサス林業調査報告書」の“森林以外の草生地”から“林野庁所管の森林以外の草生地”及び“採草放牧地（農用地として把握）”を差し引いた上で、「営林局事業統計書」の“林野庁所管放牧採草地”を加えた面積。
水面・河川・水路	水面・河川及び水路の合計である。	水面 + 河川 + 水路
水面	湖沼（天然湖沼及び人造湖）並びにため池の満水時水面面積。	天然湖沼 + 人造湖 + ため池
天然湖沼		面積 100ha 以上のものは「全国都道府県市区町村別面積調」による。 面積 10ha 以上 100ha 未満のものは「自然環境保全基礎調査湖沼調査報告書」による。
人造湖		「ダム年鑑」による湛水面積及び「農業用ダム台帳」による堤高 15m 以上の農業用ダム面積の合計。
ため池		「ため池台帳」の堤高 15m 未満のため池について、堤高区分別有効貯水量を平均堤高で除し、一定係数（0.24）を乗じる。
河川	河川法第4条に定める一級河川、同法第5条に定める二級河川及び同法第100条による準用河川の同法第6条に定める河川区域。	河川延長に図上計測により把握した河川幅員を乗じる。
水路	農業用排水路	水路面積 = (整備済水田面積 × 整備済水田

			水路率 0.081) + (未整備水田面積 × 未整備水田水路率 0.050)
道路		一般道路、農道及び林道の合計である。車道部(車道、中央帯、路肩)歩道部、自転車道部及び法面等からなる。	一般道路 + 農道 + 林道
	一般道路	道路法第2条第1項に定める道路。	「道路統計年報」による。
	農道	農道面積に一定率を乗じた圃場内農道及び「市町村農道台帳」の農道延長に一定幅員を乗じた圃場外農道。	農道面積 = 圃場内農道面積 + 圃場外農道面積 圃場内農道面積 = (整備済水田面積 × 整備済水田農道率 0.08) + (未整備水田面積 × 未整備水田農道率 0.03) + (整備済畑面積 × 整備済畑農道率 0.067) + (未整備畑面積 × 未整備畑農道率 0.023) 圃場外農道面積 : 「市町村農道台帳」による農道延長に一定幅員 8m を乗じる。
	林道	国有林道及び民有林道。	林道のうち、自動車道の延長に一定幅員 8m を乗じる。
宅地		建物の敷地面積及び建物の維持又は効用を果たすために必要な土地である。	「固定資産の価格等の概要調書」の宅地のうち、評価総地積と非課税地籍を合計したもの。
	住宅地	「固定資産の価格等の概要調書」の評価総地積の住宅用地に、非課税地籍のうち、都道府県営住宅用地、市長村営住宅用地及び公務員住宅用地を加えたもの。	「固定資産の価格等の概要調書」による。 住宅地 = 住宅用地 + 都道府県営住宅用地 + 市長村営住宅用地 + 公務員住宅用地
	工業用地	「工業統計(用地・用水編)」にいう「事業所敷地面積」を従業員 10 人以上の事業所敷地面積に補正したもの。	工業用地面積 = 従業員 30 人以上の事業所敷地面積 + 従業員 10 人以上 29 人以下の事業所敷地面積 従業員 30 人以上の事業所敷地面積 : 「工業統計(用地・用水編)」による敷地面積。 従業員 10 人以上 29 人以下の事業所敷地面積 = (従業員 30 人以上事業所敷地面積) × (従業員 10 人以上 29 人以下事業所の製造品出荷額等) × (従業員 30 人以上事業所の製造品出荷額等)
	その他の宅地	宅地、工業用地の区分のいずれにも該当しない宅地。	その他の宅地面積 = 宅地面積 - 住宅地面積 - 工業用地面積
その他	総面積から上記各面積を差し引いたものである。		

5 人口の推移

単位：人、世帯

区 分	実 績				推 計		変化指数		
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成24年	平成29年	H24 / H17	H24 / H17	
総人口	62,322	66,839	71,025	71,711	71,900	72,000	100.3	100.4	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	
	年少人口 (14歳以下)	11,191	10,924	11,366	10,966	10,200	9,800	93.0	89.4
	18.0%	16.3%	16.0%	15.3%	14.2%	13.6%	92.8	89.0	
	生産年齢人口 (15～64歳)	40,536	43,781	45,761	45,382	43,800	42,600	96.5	93.9
	65.0%	65.5%	64.4%	63.3%	60.9%	59.2%	96.3	93.5	
高齢人口 (65歳以上)	10,525	12,134	13,897	15,356	17,900	19,600	116.6	127.6	
16.9%	18.2%	19.6%	21.4%	24.9%	27.2%	116.3	127.1		
年齢不詳	70	0	1	7	-	-	-	-	
0.1%	0.0%	0.0%	0.0%						
義務教育当該年齢人口	7,317	6,872	6,731	6,739	6,000	5,800	89.0	86.1	
世帯数	18,160	21,035	23,520	25,029	26,500	27,900	105.9	111.5	
平均世帯人員	3.43	3.18	3.02	2.87	2.71	2.58	94.7	90.1	
総就業者数	33,956	37,323	39,047	38,649	37,200	36,000	96.3	93.1	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0	100.0	
	第1次産業	9,582	8,800	8,154	7,439	7,000	6,700	94.1	90.1
	28.2%	23.6%	20.9%	19.2%	18.8%	18.6%	97.8	96.7	
	第2次産業	7,937	9,384	9,681	8,719	8,000	7,200	91.8	82.6
23.4%	25.1%	24.8%	22.6%	21.5%	20.0%	95.3	88.7		
第3次産業	16,363	19,127	21,140	21,878	22,200	22,100	101.5	101.0	
48.2%	51.2%	54.1%	56.6%	59.7%	61.4%	105.4	108.4		
分類不能	74	12	72	613	-	-	-	-	
0.2%	0.0%	0.2%	1.6%						

6 国土利用の推移

単位: ha

区 分	平成8年		平成17年		変 化	
	面 積	構成比	面 積	構成比	増 減	H17 / H8
農用地	3,917	19.4%	3,539	17.5%	-378	90.3
農地	3,916	19.4%	3,534	17.5%	-382	90.2
採草放牧地	1	0.0%	5	0.0%	4	500.0
森林	11,828	58.6%	11,824	58.6%	-4	100.0
国有林	114	0.6%	114	0.6%	0	100.0
民有林	11,714	58.0%	11,710	58.0%	-4	100.0
原野	0	0.0%	4	0.0%	4	-
水面・河川・水路	259	1.3%	256	1.3%	-3	98.8
水面	2	0.0%	2	0.0%	0	100.0
河川	249	1.2%	249	1.2%	0	100.0
水路	8	0.0%	5	0.0%	-3	62.5
道路	620	3.1%	638	3.2%	18	102.9
一般道路	498	2.5%	525	2.6%	27	105.4
農道	90	0.4%	81	0.4%	-9	90.0
林道	32	0.2%	32	0.2%	0	100.0
宅地	1,374	6.8%	1,453	7.2%	79	105.7
住宅地	900	4.5%	951	4.7%	51	105.7
工業用地	45	0.2%	53	0.3%	8	117.8
その他の宅地	429	2.1%	449	2.2%	20	104.7
その他	2,194	10.9%	2,478	12.3%	284	112.9
合 計	20,192	100.0%	20,192	100.0%	0	100.0

7 利用区分ごとの国土利用の推移

単位:ha

利用区分	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
農用地	3,917	3,868	3,823	3,757	3,696	3,602	3,573	3,560	3,549	3,539
農地	3,916	3,867	3,822	3,756	3,691	3,597	3,568	3,555	3,544	3,534
採草放牧地	1	1	1	1	5	5	5	5	5	5
森林	11,828	11,829	11,775	11,808	11,808	11,825	11,824	11,824	11,825	11,824
国有林	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114
林野庁所管国有林	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
官行造林地	114	114	114	114	114	114	114	114	114	114
その他官庁所管国有林	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民有林	11,714	11,715	11,661	11,694	11,694	11,711	11,710	11,710	11,711	11,710
原野	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4
水面・河川・水路	259	258	258	257	256	256	256	256	256	256
水面	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
天然湖沼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人造湖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ため池	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
河川	249	249	249	249	249	249	249	249	249	249
水路	8	7	7	6	5	5	5	5	5	5
道路	620	622	625	627	628	629	630	635	638	638
一般道路	498	501	505	509	511	514	516	521	524	525
農道	90	89	88	86	85	83	82	82	82	81
林道	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
宅地	1,374	1,398	1,405	1,412	1,419	1,426	1,432	1,439	1,446	1,453
住宅地	900	916	921	926	930	936	940	945	949	951
工業用地	45	46	47	47	47	47	47	47	48	53
その他の宅地	429	436	437	439	442	443	445	447	449	449
その他	2,194	2,217	2,306	2,331	2,381	2,451	2,473	2,474	2,474	2,478
合 計	20,192	20,192	20,192	20,192	20,192	20,192	20,192	20,192	20,192	20,192

8 利用区分ごとの国土利用の規模の目標

単位:ha

区 分	平成17年		平成24年		平成29年		変化指数	
	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	H24 / H17	H29 / H17
農用地	3,539	17.5%	3,461	17.1%	3,434	17.0%	97.8	97.0
農地	3,534	17.5%	3,456	17.1%	3,429	17.0%	97.8	97.0
採草放牧地	5	0.0%	5	0.0%	5	0.0%	100.0	100.0
森林	11,824	58.6%	11,818	58.5%	11,817	58.5%	99.9	99.9
国有林	114	0.6%	114	0.6%	114	0.6%	100.0	100.0
民有林	11,710	58.0%	11,704	58.0%	11,703	58.0%	99.9	99.9
原野	4	0.0%	4	0.0%	4	0.0%	100.0	100.0
水面・河川・水路	256	1.3%	256	1.3%	256	1.3%	100.0	100.0
水面	2	0.0%	2	0.0%	2	0.0%	100.0	100.0
河川	249	1.2%	249	1.2%	249	1.2%	100.0	100.0
水路	5	0.0%	5	0.0%	5	0.0%	100.0	100.0
道路	638	3.2%	658	3.3%	672	3.3%	103.1	105.3
一般道路	525	2.6%	545	2.7%	559	2.8%	103.8	106.5
農道	81	0.4%	81	0.4%	81	0.4%	100.0	100.0
林道	32	0.2%	32	0.2%	32	0.2%	100.0	100.0
宅地	1,453	7.2%	1,505	7.5%	1,523	7.5%	103.6	104.8
住宅地	951	4.7%	975	4.8%	988	4.9%	102.5	103.9
工業用地	53	0.3%	70	0.3%	72	0.4%	132.1	135.8
その他の宅地	449	2.2%	460	2.3%	463	2.3%	102.4	103.1
その他	2,478	12.3%	2,490	12.3%	2,486	12.3%	100.5	100.3
合 計	20,192	100.0%	20,192	100.0%	20,192	100.0%	100.0	100.0

9 人口等を基礎とした用地原単位の推移

(1) 農用地面積と関係指数の推移と目標

区分	農用地面積			総人口 (人)	農業就業 人口 (人)	人口1人 当たり 農用地面積 (a/人)	農業就業人口 1人当たり 農用地面積 (a/人)
	農地 (ha)	採草放牧地 (ha)	計 (ha)				
平成8年	3,916	1	3,917				
平成9年	3,867	1	3,868				
平成10年	3,822	1	3,823				
平成11年	3,756	1	3,757				
平成12年	3,691	5	3,696	71,025	8,096	5.2	45.6
平成13年	3,597	5	3,602				
平成14年	3,568	5	3,573				
平成15年	3,555	5	3,560				
平成16年	3,544	5	3,549				
平成17年	3,534	5	3,539	71,711	7,394	4.9	47.8
平成24年	3,456	5	3,461	71,900	6,970	4.8	49.6
平成29年	3,429	5	3,434	72,000	6,680	4.8	51.3

(2) 森林面積と関係指数の推移と目標

区分	森林面積 (ha)	総人口 (人)	市面積 (ha)	人口1人 当たり 森林面積 (a/人)	市面積に 占める 森林面積の割合
平成8年	11,828		20,192		58.6%
平成9年	11,829		20,192		58.6%
平成10年	11,775		20,192		58.3%
平成11年	11,808		20,192		58.5%
平成12年	11,808	71,025	20,192	16.6	58.5%
平成13年	11,825		20,192		58.6%
平成14年	11,824		20,192		58.6%
平成15年	11,824		20,192		58.6%
平成16年	11,825		20,192		58.6%
平成17年	11,824	71,711	20,192	16.5	58.6%
平成24年	11,818	71,900	20,192	16.4	58.5%
平成29年	11,817	72,000	20,192	16.4	58.5%

(3) 水面・河川・水路面積の推移と目標

区分	水面・河川 ・水路面積 (ha)	総人口 (人)	市面積 (ha)	人口千人 当たり 水面・河川・水路面積 (ha / 千人)	市面積に占める 水面・河川・水路 面積の割合
平成8年	259		20,192		1.3%
平成9年	258		20,192		1.3%
平成10年	258		20,192		1.3%
平成11年	257		20,192		1.3%
平成12年	256	71,025	20,192	3.6	1.3%
平成13年	256		20,192		1.3%
平成14年	256		20,192		1.3%
平成15年	256		20,192		1.3%
平成16年	256		20,192		1.3%
平成17年	256	71,711	20,192	3.6	1.3%
平成24年	256	71,900	20,192	3.6	1.3%
平成29年	256	72,000	20,192	3.6	1.3%

(4) 水面・河川・水路の面積の推移

区分	水面・河川・水路面積				変化指数
	水面 (ha)	河川 (ha)	水路 (ha)	計 (ha)	
平成8年	2	249	8	259	100.0
平成9年	2	249	7	258	100.0
平成10年	2	249	7	258	100.0
平成11年	2	249	6	257	100.0
平成12年	2	249	5	256	100.0
平成13年	2	249	5	256	100.0
平成14年	2	249	5	256	100.0
平成15年	2	249	5	256	100.0
平成16年	2	249	5	256	100.0
平成17年	2	249	5	256	100.0
平成24年	2	249	5	256	100.0
平成29年	2	249	5	256	100.0

(5) 道路面積と関係指数の推移と目標

区分	道路面積 (ha)	総人口 (人)	市面積 (ha)	人口千人 当たり 道路面積 (ha / 千人)	市面積に占める 道路面積の 割合
平成8年	620		20,192		3.1%
平成9年	622		20,192		3.1%
平成10年	625		20,192		3.1%
平成11年	627		20,192		3.1%
平成12年	628	71,025	20,192	8.8	3.1%
平成13年	629		20,192		3.1%
平成14年	630		20,192		3.1%
平成15年	635		20,192		3.1%
平成16年	638		20,192		3.2%
平成17年	638	71,711	20,192	8.9	3.2%
平成24年	658	71,900	20,192	9.2	3.3%
平成29年	672	72,000	20,192	9.3	3.3%

(6) 道路面積の推移

区分	道路面積					変化指数
	一般道路 (ha)	農林道面積		計 (ha)	計 (ha)	
		農道 (ha)	林道 (ha)			
平成8年	498	90	32	122	620	100.0
平成9年	501	89	32	121	622	100.3
平成10年	505	88	32	120	625	100.8
平成11年	509	86	32	118	627	101.1
平成12年	511	85	32	117	628	101.3
平成13年	514	83	32	115	629	101.5
平成14年	516	82	32	114	630	101.6
平成15年	521	82	32	114	635	102.4
平成16年	524	82	32	114	638	102.9
平成17年	525	81	32	113	638	102.9
平成24年	545	81	32	113	658	106.1
平成29年	559	81	32	113	672	108.4

(7) 住宅地面積の推移と目標

区分	住宅地面積 (ha)	総世帯数 (世帯)	1世帯当たり 住宅地面積 (m^2 / 世帯)
平成8年	900		
平成9年	916		
平成10年	921		
平成11年	926		
平成12年	930	23,520	395.4
平成13年	936		
平成14年	940		
平成15年	945		
平成16年	949		
平成17年	951	25,029	380.0
平成24年	975	26,500	367.9
平成29年	988	27,900	354.1

(8) 工業用地面積と関係指数の推移と目標

区分	工業用地 面積 (ha)	従業者数 (人)	従業者 1人当たり 工業用地面積 (m^2 / 人)
平成8年	45	4,573	98.4
平成9年	46	4,491	102.4
平成10年	47	4,639	101.3
平成11年	47	4,471	105.1
平成12年	47	4,590	102.4
平成13年	47	4,545	103.4
平成14年	47	4,583	102.6
平成15年	47	4,631	101.5
平成16年	48	4,476	107.2
平成17年	53		
平成24年	70	5,500	127.3
平成29年	72	5,700	126.3

(9) その他の宅地面積の推移と目標

区分	その他の 宅地面積 (ha)	総人口 (人)	人口1人当たり その他の宅地面積 (㎡/人)
平成8年	429		
平成9年	436		
平成10年	437		
平成11年	439		
平成12年	442	71,025	62.2
平成13年	443		
平成14年	445		
平成15年	447		
平成16年	449		
平成17年	449	71,711	62.6
平成24年	460	71,900	64.0
平成29年	463	72,000	64.3

(10) その他の面積の推移と目標

区分	その他 面積 (ha)	備 考
平成8年	2,194	
平成9年	2,217	
平成10年	2,306	
平成11年	2,331	
平成12年	2,381	
平成13年	2,451	
平成14年	2,473	
平成15年	2,474	
平成16年	2,474	
平成17年	2,478	以下の公共施設用地等を含む。 市役所本庁舎・支所 5.4ha 消防施設等 0.8ha 保育所 3.0ha 学校 35.8ha 教育施設 26.2ha 集落センター 0.9ha 公園・その他施設 23.0ha
平成24年	2,490	
平成29年	2,486	

(11) 全域面積と関係指標の推移と目標

区分	市面積 (ha)	総人口 (人)	人口1人当たり 市面積 (a/人)
平成8年	20,192		
平成9年	20,192		
平成10年	20,192		
平成11年	20,192		
平成12年	20,192	71,025	28.4
平成13年	20,192		
平成14年	20,192		
平成15年	20,192		
平成16年	20,192		
平成17年	20,192	71,711	28.2
平成24年	20,192	71,900	28.1
平成29年	20,192	72,000	28.0